

射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

—高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他—

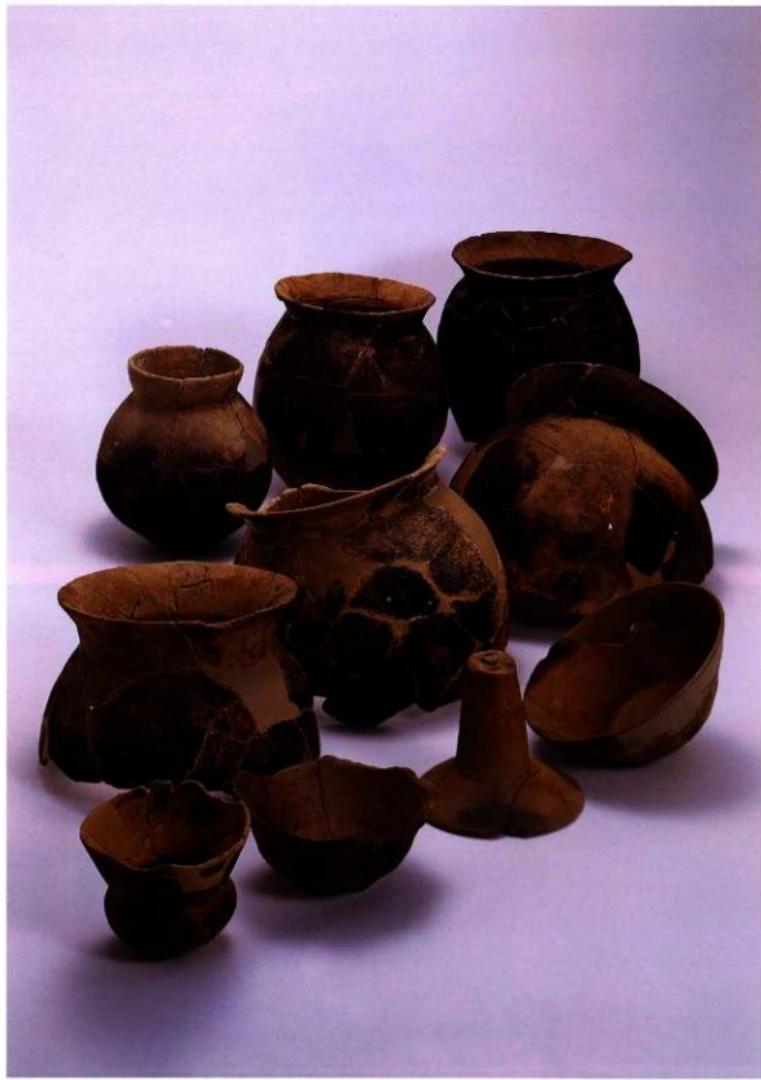
2012年

富山県射水市教育委員会



上 高島A遺跡遠景（北から） 下 高島A遺跡7地区12号土坑 土師器出土状況（古墳時代）

卷首図版 2



高島 A 遺跡 7 地区出土遺物（古墳時代）

射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

—高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他—

2012年

富山県射水市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成22年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
 - 2 分布調査・試掘調査・本発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
 - 3 対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
 - 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会文化・スポーツ課主任 田中 明・主任 金三津英剛が担当した。
 - 5 発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。(五十音順)
【現地調査】 木谷和夫・佐藤由勝・高木 武・鈴 清範・端 充弘・湊 敏之・安吉詔明
 山田一成 (以上射水市シルバー人材センター)
【整理作業】 高瀬直子・開 一美・堀塙実津子・吉沢泰子
 - 6 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡例

- 本書で用いた座標は世界測地系第Ⅷ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
 - 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。

S B : 棚列 SD : 溝 SE : 井戸 SK : 土坑
 - 遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の
1/4を基本とするが、縮尺の異なるものはスケールとともにその縮尺を表記した。
 - 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
 - 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
 - 第4章第1節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次
のとおりとした。
 - : 繩文土器 □ : 弦生土器 ▽ : 土師器 ▲ : 須恵器 ■ : 珠洲 □ : 中世土師器
 - : 中世陶磁器 ⊗ : 近世陶磁器 ○ : 木製品 ◆ : 石製品 ★ : 金属製品 ◇ : 鉄滓
 - ☆ : その他 (近代以降) T : トレンチ
 - 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。

■ : 須恵器・珠洲 ■ : 煤・炭化物 : 赤彩処理

目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 高島A遺跡本発掘調査	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査の概要	4
第3節 遺構と遺物	4
第1項 本発掘調査7地区	4
第2項 本発掘調査8地区	8
第3項 本発掘調査9地区	8
第4節 総括	15
第3章 広上地区分布調査	19
第1節 調査に至る経緯と調査の経過	19
第2節 調査の方法	20
第3節 調査の概要	20
第1項 基本層序	20
第2項 遺構・遺物及び地形の状況	20
第3項 歴史的環境と調査のまとめ	22
第4章 その他の遺跡調査	24
第1節 平成22年度試掘調査概要	26
1. 小林遺跡	26
2. 今井二島遺跡	26
3. 田町遺跡	27
4. 三ヶ遺跡	27
5. 八塚A遺跡	28
6. 三ヶ遺跡	28
7. 新屋敷遺跡	29
8. 日宮城跡	29
9. 黒河南遺跡	30
10. 本江宮田遺跡	30
11. 朴木C遺跡	31
12. 朴木C遺跡	31
13. 八塚A遺跡	32

卷首図版目次

- 卷首図版 1 高島 A 遺跡遠景 7 地区12号土坑 土師器出土状況（古墳時代）
卷首図版 2 高島 A 遺跡 7 地区出土遺物（古墳時代）

挿図目次

第1図 射水市の位置	1
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図 発掘区位置図 [高島 A 遺跡]	3
第4図 遺構実測図 [高島 A 遺跡 7 地区]	5
第5図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 7 地区]	6
第6図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 7 地区]	7
第7図 遺構実測図 [高島 A 遺跡 8 地区]	9
第8図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 8 地区]	10
第9図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 8 地区]	11
第10図 遺構実測図 [高島 A 遺跡 9 地区]	12
第11図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 9 地区]	13
第12図 遺物実測図 [高島 A 遺跡 9 地区]	14
第13図 弥生大溝・中世区画溝位置図	15
第14図 調査対象地及び周辺の遺跡	19
第15図 分布調査の結果	21
第16図 試掘調査位置図	25
第17図 遺物実測図 [小林遺跡・三ヶ遺跡・新屋敷遺跡・朴木 C 遺跡]	32

表目次

第1表 出上遺物観察表 [高島 A 遺跡] (1 ~ 53)	16
第2表 出土遺物観察表 [高島 A 遺跡] (54~106)	17
第3表 出土遺物観察表 [高島 A 遺跡] (107~126)	18
第4表 平成22年度埋蔵文化財発掘調査一覧	24
第5表 出土遺物観察表 [試掘調査] (1 ~ 7)	32

図版目次

図版 1 遺構全景・溝・土坑	[高島 A 遺跡 7 地区]	S D07 S D09 S K03 S K12
図版 2 遺物出土状況	[高島 A 遺跡 7 地区]	S D09 S D18 S K10 S K12 S K17
図版 3 出土遺物 土器	[高島 A 遺跡 7 地区]	
図版 4 遺構全景・土坑・井戸	[高島 A 遺跡 8 地区]	S K02 S K12 S K43 S E20
図版 5 出土遺物 土器	[高島 A 遺跡 8 地区]	
図版 6 遺構全景・溝・土坑	[高島 A 遺跡 9 地区]	S D18 S D20 S D22 S K28
図版 7 出土遺物 上器	[高島 A 遺跡 9 地区]	
図版 8 分布調査／遠景	[広上地区]	
図版 9 分布調査／上層断面	[広上地区]	
図版10 分布調査／調査状況・出土遺物	[広上地区]	
図版11 試掘調査／出土遺物	[小林遺跡]	
図版12 試掘調査／出土遺物	[三ヶ遺跡]	
図版13 試掘調査／出土遺物	[新屋敷遺跡]	
図版14 試掘調査／出土遺物	[朴木 C 遺跡]	

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.18km²である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万3千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万~8千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この

沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は繩文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが濁み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青谷井泥岩層を基盤とし、上層に疊と砂泥からなる日ノ宮瓦層と太閤山火碎石岩層が堆積している。鍛治川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境で、先人達は集落を形成していくものと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A~D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営られてきたと考えられている。

高島A遺跡は、庄川右岸に形成された標高約1.5m前後の沖積低地に立地し、弥生・古墳時代を主体とする遺跡である。平成9年度本発掘調査では弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物2棟と方形周溝墓1基が確認されている。また平成14年度試掘調査では、遺跡北半分の遺構分布範囲を確定している。平成17年度には、土地区画整理事業に伴う本発掘調査が行われ、弥生時代後期~古墳時代前期、鎌倉時代~室町時代の遺構・遺物が確認され、全国初となる装飾性に富んだ石製品も出土している。

広上地区は、射水市南西部に位置する東西約1.0km、南北約1.9kmの水田地帯である。同地区では、これまで埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、文献史料では、「広上」の地名は鎌倉時代中期の文永7年（1270）に現れ、周辺の小泉・上条・下条・島の5か村と共に「浅井郷五ヶ村」と称された。また、地区にある広上神社には、射水市指定文化財である「木造男神像」が伝えられるなど、中世以来の歴史をもつ地域である。



第1図 射水市の位置

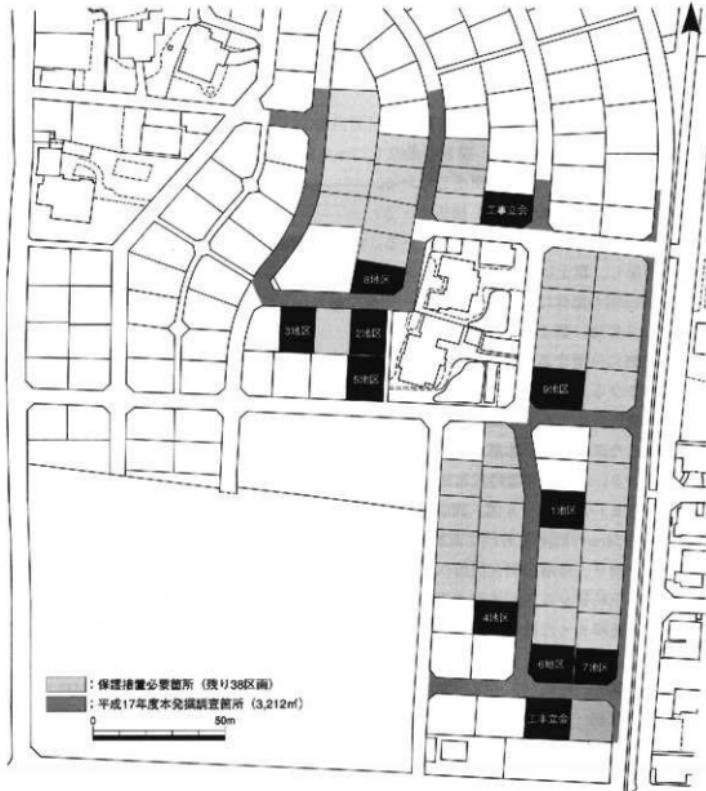


第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2章 高島A遺跡本発掘調査

第1節 調査に至る経緯

平成13年度、新湊市（現射水市）鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会を受けた。平成14年度、事業計画地が埋蔵文化財包蔵地（高島A遺跡）に含まれることから、遺跡保護と工事計画の調整を図る目的で実施調査を実施した。その結果、計画地南側半分の約25,000m²を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物を確認した。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、本発掘調査による記録保存が必要との判断を示した。平成17年度、造成工事に先立ち計画道路部分の3,212m²において本発掘調査を実施した。平成19年度、分譲が開始され宅地49区画で遺跡の保護措置が必要となり、工事が地下遺構に与える影響を判断しながらの対応となった。平成19・20年度各1件、平成21年度4件、平成22年度は3件の本発掘調査・2件の工事立会を完了し、残り38区画は平成23年度以降の対応となった。



第3図 発掘区位置図 [高島A遺跡]

第2節 調査の概要

調査区は造成工事により山砂の盛土がなされていたため、まず重機で盛土と旧水田耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げを順次人力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影(35mm・6×7中判・デジタル)や遺構概略図(1/100)、遺構断面図・遺構平面図(1/20)作成等の記録図化作業を実施した。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図っている。その際に住宅基礎工事の改良掘削深度より深い遺構が検出された地区では、不同沈下防止のため新たな山砂を充填し重機で踏み固めている。

調査区の基本層序は1～3層に分層される。上から1層は山砂の造成盛土、2層は山砂の下の旧水田耕作土、3層は灰黄色(2.5Y7/2)粘質シルトの地山である。遺構は全て3層から掘り込まれている。

第3節 遺構と遺物

第1項 本発掘調査7地区

7号溝 (SD07、第4・5図、図版1)

調査区西側に位置する南北方向の溝である。両端とも調査区外へのび、北端は二股に分れる。幅50cm～88cm、深さ25cm～37cm、全長約8.6mを検出。覆土は黒褐色シルトに炭化物が混在する。遺物は土師器が出土している。第5図1は口縁部が外反する有段壺、時期は古墳時代前期のものである。

11号溝 (SD11、第4図、図版1)

調査区中央部に位置し、北西～南東方向に向けて直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長約11m、幅68cm～144cm、深さは最深で12cmを測る。覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲が出土している。

10号土坑 (SK10、第4・6図、図版1・2)

調査区の北西部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸68cm、短軸60cm、深さ41cmを測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は上層に黒褐色シルト、下層に黒色シルトが堆積する。遺物は珠洲が出土。第6図29は4.2cm幅の原体に鉢口13条を施す片口鉢である。

12号土坑 (SK12、第4・5図、図版1～3)

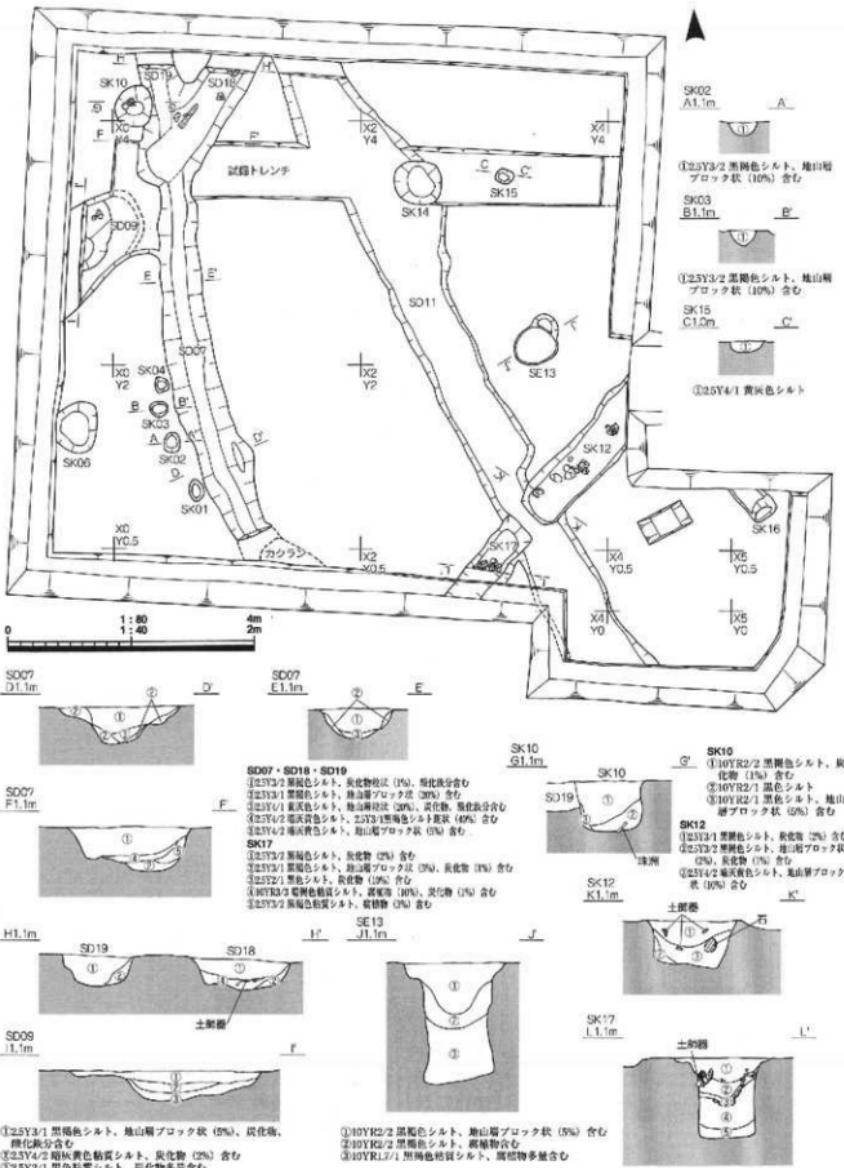
調査区の東側に位置する隅丸方形土坑である。全長約2.6m、幅76cm、深さ30cmを測り、東端は調査区外へのびる。断面は逆台形状を呈し、覆土は上層に炭化物を含む黒褐色シルト、下層に地山層が混在する暗灰黄色シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。第5図3・4は赤彩処理を施した高坏。8は内済した深くて丸い体部で丸底の小型鉢で完形。9～13は「く」の字状口縁部の壺で外面に煤が付着している。時期は古墳時代前期のものである。

17号土坑 (SK17、第4・6図、図版1～3)

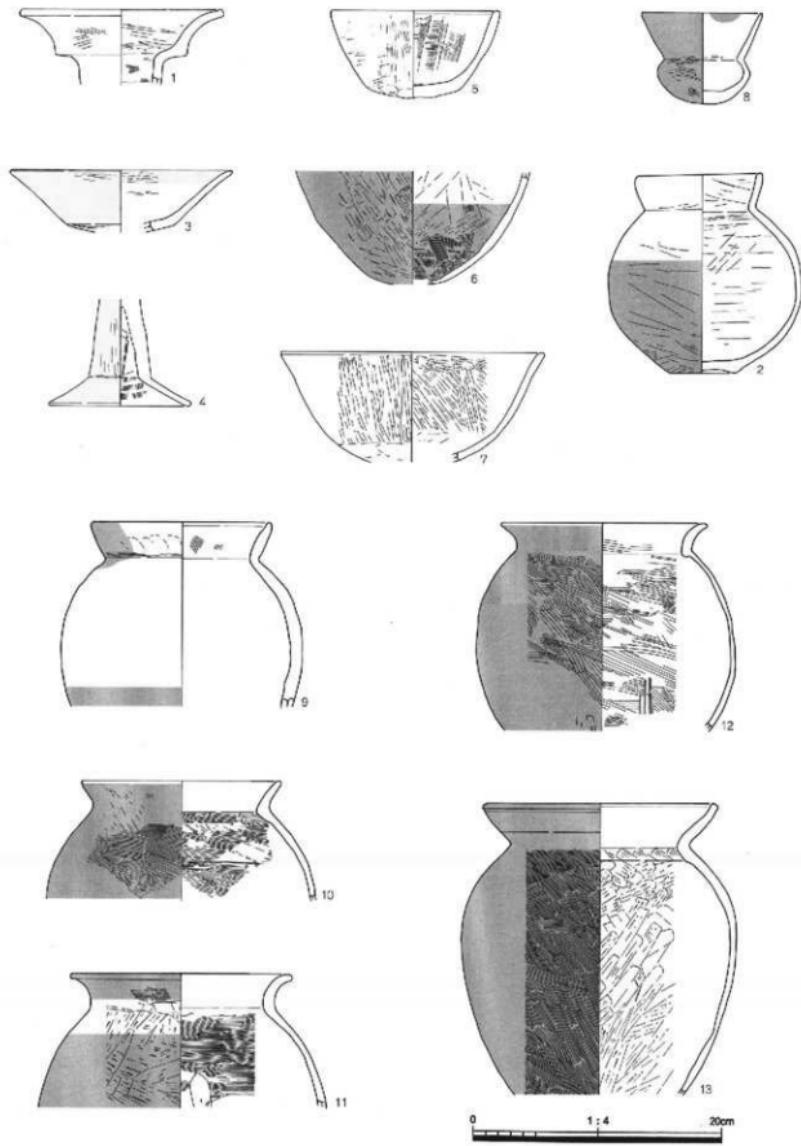
12号土坑と約24cmの間隔をあけて直線上に位置する隅丸方形土坑である。全長約1.2m、幅56cm、深さ66cmを測り、南端は調査区外へのびる。覆土は上層に炭化物を含む黒褐色シルト、下層に腐植物を含む暗褐色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。上層底部からまとまって出土しているため、ある程度埋まった後に一括廃棄されたものと考えられる。出土遺物の帰属時期が同じである12号土坑と同時期遺構と考えられる。第6図14・15は小型鉢。16・17は高坏の坏部。21～27は「く」の字状口縁部の壺で、時期は古墳時代前期のものである。26・27は体部外面に籠目痕が残る。

13号井戸 (SE13、第4図、図版1)

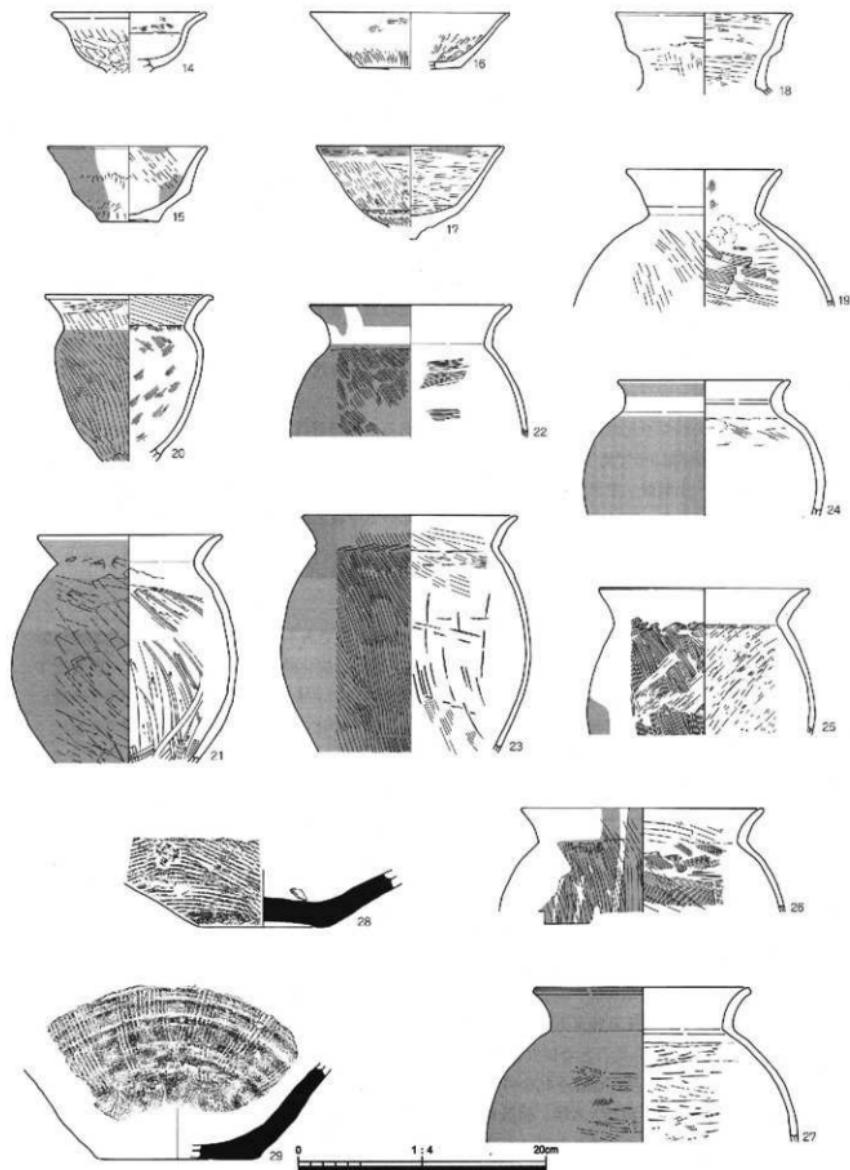
調査区中央やや東側に位置する素掘り井戸である。平面形状は不整形で、深さは1mを測る。底面での標高が約0.1mで地下水が自噴する。覆土は腐植物を多量に含む黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は陶化できるものは無かったが、土師器片が出土している。



第4図 遺構実測図「高島A遺跡7地区」(1/80、断面図1/40)



第5図 遺物実測図 [高島A遺跡7地区] (1/4)
 SD07 (1) SD18 (2) SK12 (3~13)



第6図 遺物実測図 [高島A遺跡7地区] (1/4)

SK17 (14~27) SK10 (28・29)

第2項 本発掘調査8地区

41号溝 (S D41、第7・8図、図版4・5)

調査区中央部に位置する幅38cm~46cm、深さ10cmの南北溝である。中央付近で珠洲が出土している中世期の40号土坑に切られており、その以北は判然としない。断面は弧状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。第8図44は口径16cmを測る有段壺である。

1号土坑 (S K01、第7・8図、図版4・5)

調査区北東部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸138cm、短軸74cm、深さは最深で24cmを測る。断面は概ね皿状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は上師器が出土。第8図32は高杯又は器台の脚部である。透孔を施し、脚径19.3cmを測る。

2号土坑 (S K02、第7・8図、図版4・5)

調査区の南東側に位置する不整形土坑である。断面は皿状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は繩文土器・弥生土器・土師器が出土している。第8図33・34は繩文土器か。35は口縁部内面に格子状刻みを施す弥生土器壺、時期は弥生時代中期後半のものである。

20号井戸 (S E20、第7・9図、図版4・5)

調査区の中央部や北側に位置する素掘り井戸である。平面形状は不整形で、深さは72cmを測る。底面での標高が約0.3mで地下水が自噴する。覆土は地山屑が混在する黒褐色シルトが堆積する。遺物は繩文土器・土師器・中世土器節器が出土。第9図58は内外面に赤彩を施す小型器台、時期は古墳時代前期のものである。71は内外面に炭化物が付着している中世土師器の灯明皿である。

第3項 本発掘調査9地区

18号溝 (S D18、第10・11図、図版6・7)

調査区東側に位置し、北西・南東方向に直線的に流れる溝である。幅56cm~80cm、深さ20cm~34cm、全長約6.6mを検出し、北端は調査区外へのびる。覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・土師器が出土。第11図75は口縁部内面に羽状文を施す弥生時代中期後半の壺、83~86は口縁部外面に擬凹線を施す弥生時代後期の壺、76・77は古墳時代前期の土師器壺である。

20号溝 (S D20、第10・11図、図版6・7)

調査区中央部に位置する南北溝である。全長約3.3m、幅54cm~65cm、深さ42cm~50cmを測り、北端は18号溝と切り合う。断面は概ね逆台形状を呈し、覆土は黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲・中世土師器が出土。第11図98は口径18.6cmを測る有段壺、100は中世土師器皿である。

27号溝 (S D27、第10・12図、図版6・7)

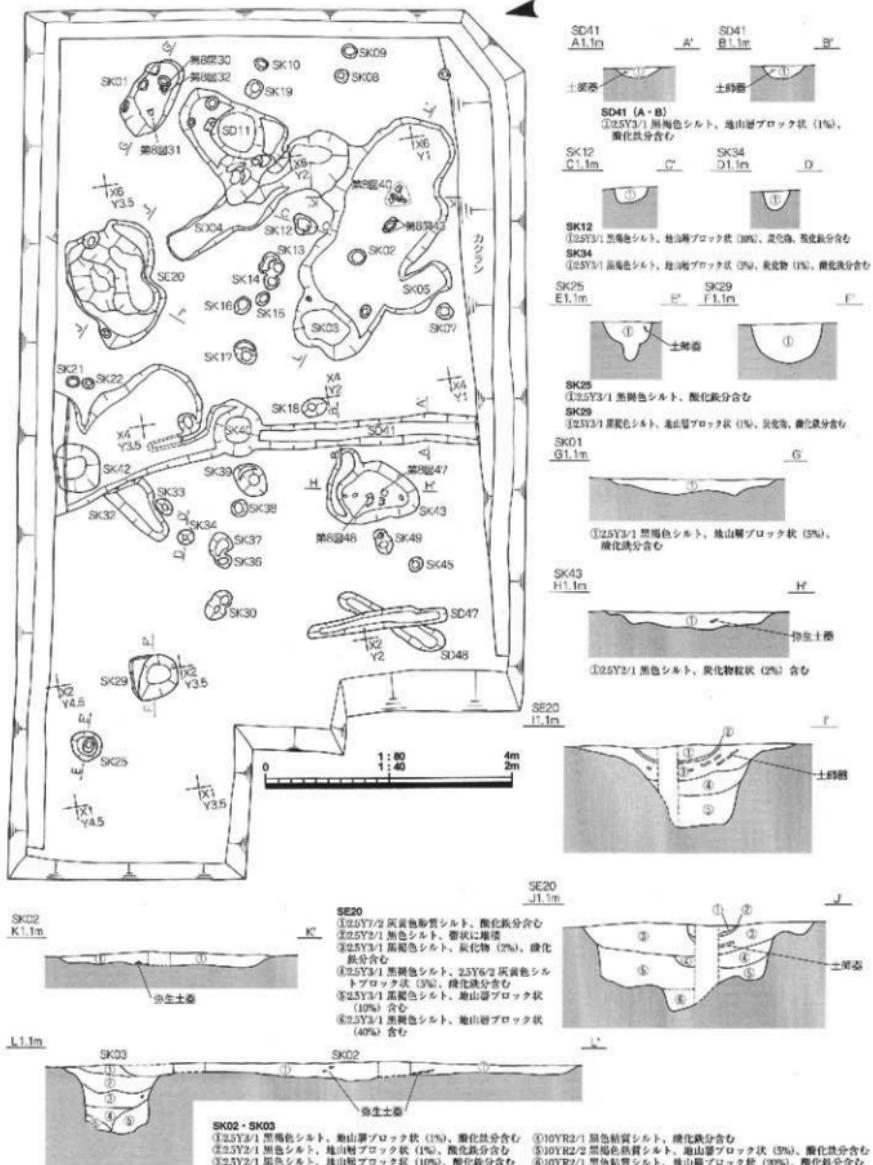
調査区の南西部に位置する東西溝である。両端とも調査区外へのび、全長約4.8m、深さ12cm~36cmを測る。17号溝を掘り込んでおり、新旧関係は17号溝より新しい。断面は逆台形状を呈し、覆土は黄灰色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲が出土。第12図116・117は珠洲の壺又は壺の破片。

13号土坑 (S K13、第10図、図版6)

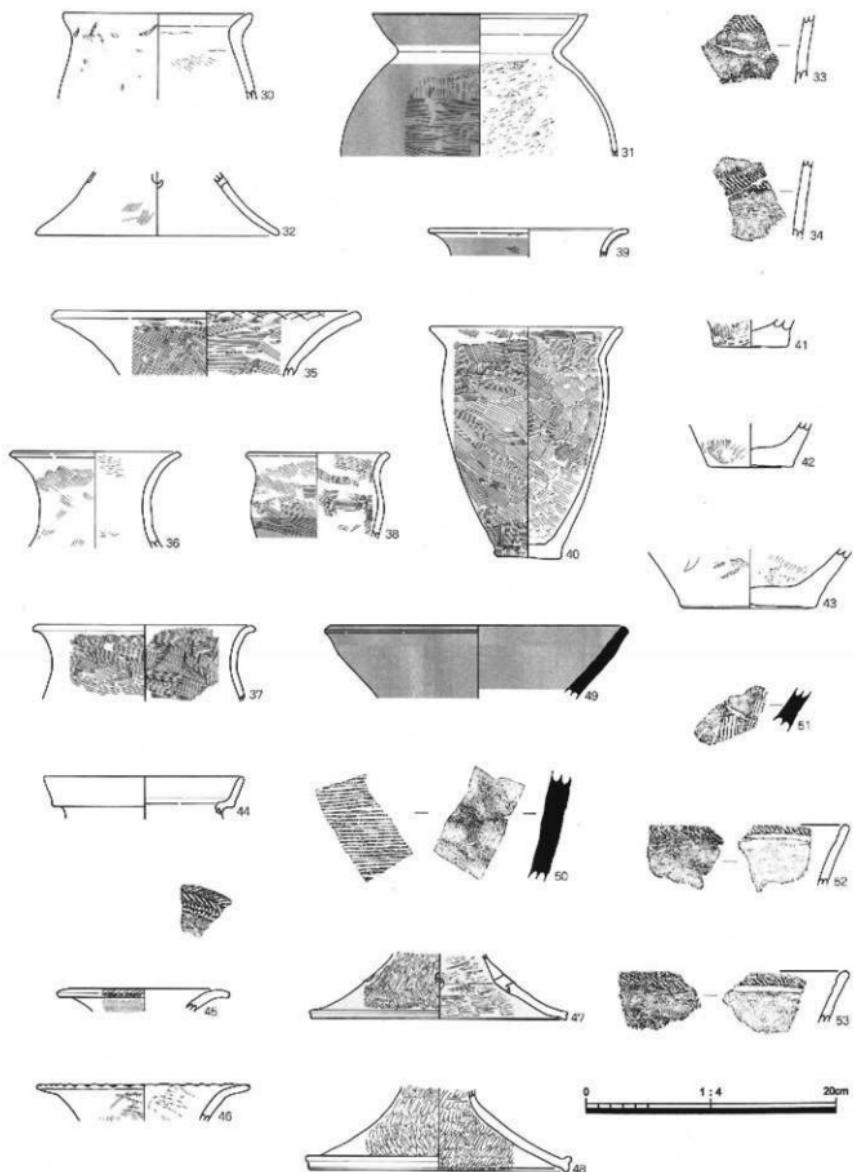
調査区北西部に位置する隅丸方形の土坑である。一辺52cm~64cm、深さ30cmを測り、底面から25cm×5cm角の檻板が出土したことで柱穴と考える。10号土坑・28号土坑と共に直線上・等間隔に並ぶが、染行きに同じ規模の土坑が確認されないため1号櫛列 (SB01) と考えられる。遺物は土師器が出土。

28号土坑 (S K28、第10・12図、図版6・7)

調査区中央部に位置する隅丸方形の土坑である。一辺55cm~65cm、深さは最深で40cmを測り、底面に直径24cmの柱穴跡がある。古墳時代の土師器が共に出土している17号溝を掘り込むため、同時代での時期差が検証できる。新旧関係は17号溝より新しい。覆土は炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。

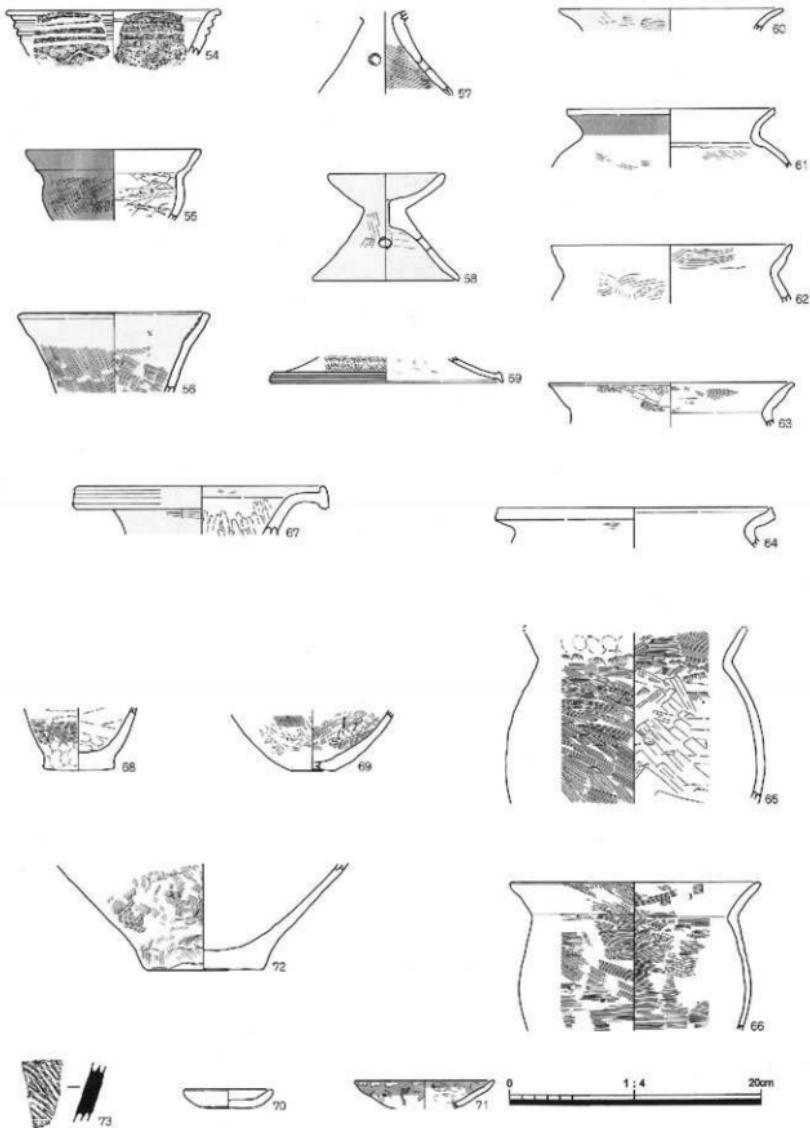


第7図 遺構実測図【高島A遺跡8地区】(1/80、断面図1/40)

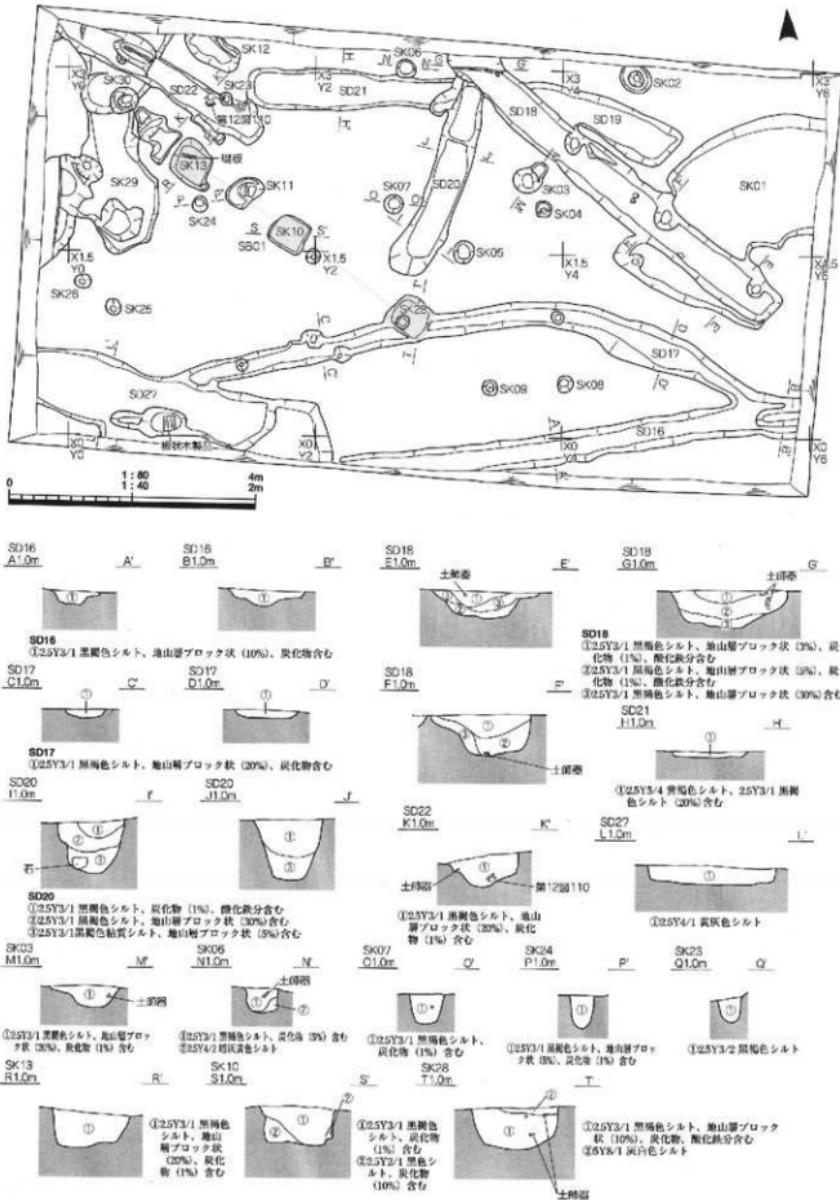


第8図 遺物実測図【高島A遺跡8地区】(1/4)

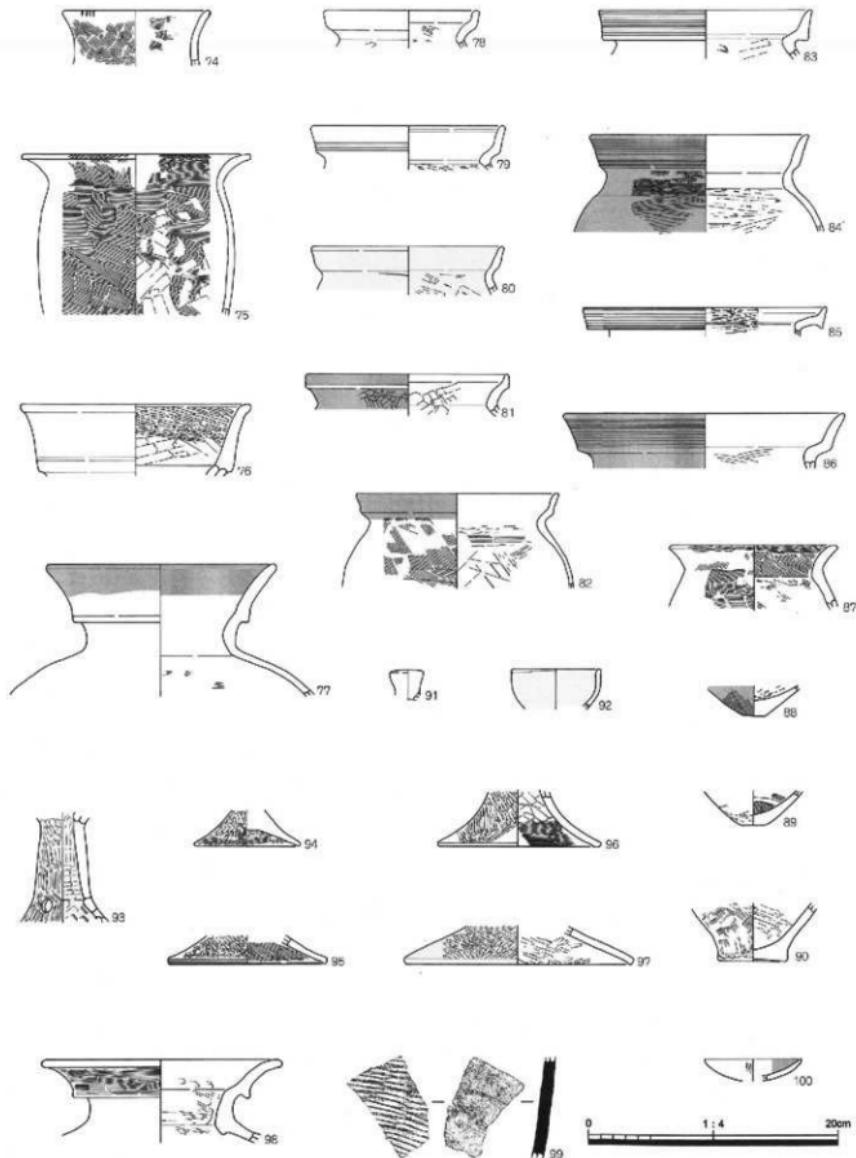
SK01 (30~32) SK02 (33~43) SD41 (44) SK42 (45~46) SK43 (47~48) SK40 (49~50) SK29 (51) SD04 (52)
SD11 (53)



第9図 遺物実測図 [高島A遺跡B地区] (1/4)
SE20(54~71) 包含層(72~73)

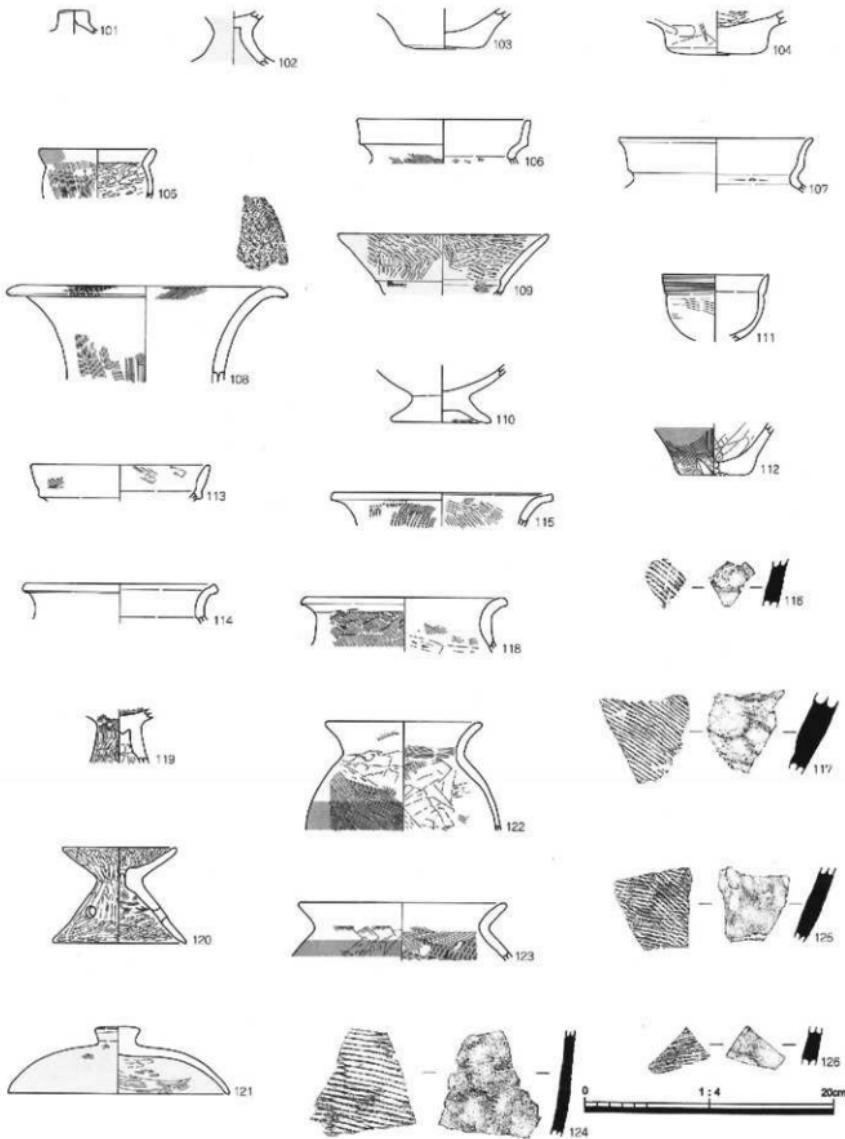


第10図 遺構実測図 [高島A遺跡 9地区] (1/80、断面図1/40)



第11図 遺物実測図 [高島A遺跡9地区] (1/4)

SD18 (74~97) SD20 (98~100)



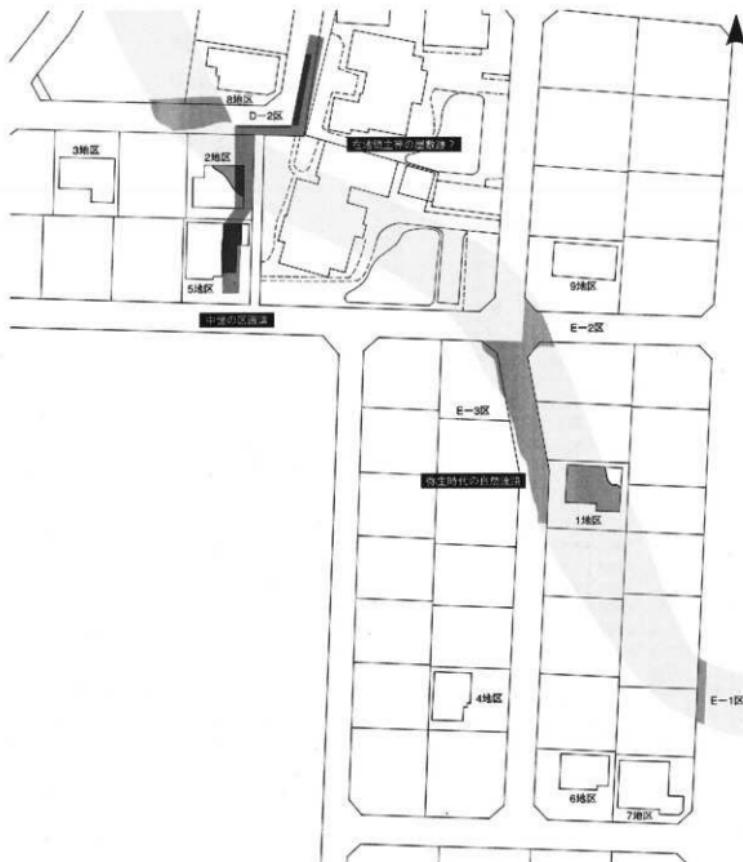
第12図 遺物実測図 [高島A遺跡 9地区] (1/4)

SK01 (101~104) SK03 (105) SK06 (106) SD19 (107) SD22 (108~112) SD27 (113~117) SK28 (118) SK29 (119~123)
包含層 (124~126)

第4節 総括

高島A遺跡は、平成14年度から土地区画整理事業や個人住宅建築に伴う発掘調査が実施され、弥生～古墳時代・鎌倉～室町時代の2時期の遺構が確認されている。これらの遺構の中で広範囲に拡がるもののが2つある。先ずはD-2区からE-1区へと続く弥生時代の自然流路である。幅13m～18mを測り、北西～南東方向に蛇行しながら流れる。遺物は弥生土器、時期は弥生時代中期後半から後期である。この遺構で隔てられた両岸域に弥生～古墳時代の集落跡が想定できる。次は5地区からD-2区へと続く鎌倉～室町時代の区画溝である。幅3.2m～3.6mを測る南北方向の直線溝で、途中直角に曲がりながら流れる。遺物は珠洲・八尾・瀬戸古美濃・青磁等が出土。この遺構の区画内には在地領主等の屋敷跡が想定できる。この2つの遺構は2地区で重なっており、古墳時代以降に埋没した弥生時代の自然流路を、鎌倉時代以降に掘削し屋敷の区画溝として利用したことが考えられる。

年々進んでいく発掘調査により、遺跡の様相が少しづつ明らかになると今後も期待したい。



第13図 弥生時代の自然流路・中世の区画溝位置図【高島A遺跡】

第1表 出土遺物観察表（高島A遺跡）

団版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第5回	1	S D07	7地区	土師器	甕	15.9			口1/8
	2	S D18	7地区	土師器	甕	9.7	16.2	外面部付着	口2/2完存
	3	S K12	7地区	土師器	高环	17.4		内外面赤彩	口1/4
	4	S K12	7地区	土師器	高环		11.0	外面部赤彩	底1/2 脚完存
	5	S K12	7地区	土師器	鉢	13.4	7.2		口3/16 底完存
	6	S K12	7地区	土師器	甕		7.2	内外面煤付着	体下部1/3
	7	S K12	7地区	土師器	鉢	20.9			口1/2
	8	S K12	7地区	土師器	鉢	9.5	7.5	外面部赤彩 内外面煤付着	完形
	9	S K12	7地区	土師器	甕	15.0		外面部煤付着	口2/5
	10	S K12	7地区	土師器	甕	15.9		外面部煤付着	口1/2
	11	S K12	7地区	土師器	甕	17.1		外面部煤付着	口1/2 体上部1/4
	12	S K12	7地区	土師器	甕	16.2		外面部煤付着	口1/2 体2/3
	13	S K12	7地区	土師器	甕	18.2		外面部煤付着	口3/4 体1/2
第6回	14	S K17	7地区	土師器	鉢	12.3			口11/4
	15	S K17	7地区	土師器	鉢	12.9			口1/2 底完存
	16	S K17	7地区	土師器	高环	16.1			口11/5
	17	S K17	7地区	土師器	高环	15.2		内外面煤付着	口11/4 坏完存
	18	S K17	7地区	土師器	甕	14.3			口11/2
	19	S K17	7地区	土師器	甕	12.4			口11/4
	20	S K17	7地区	土師器	甕	13.3		外面部煤付着	口11/3
	21	S K17	7地区	土師器	甕	14.6		外面部煤付着	口3/4 体完存
	22	S K17	7地区	土師器	甕	16.3		外面部煤付着	口完存
	23	S K17	7地区	土師器	甕	16.8		外面部煤付着	口完存
	24	S K17	7地区	土師器	甕	13.6		外面部煤付着	口完存
	25	S K17	7地区	土師器	甕	16.9		外面部煤付着	口完存
	26	S K17	7地区	土師器	甕	19.4		外面部煤付着 龍目痕	口1/6
	27	S K17	7地区	土師器	甕	17.1		外面部煤付着 龍目痕	口1/2
第8回	28	S K10	7地区	珠洲	甕(瓶)		10.5		底3/8
	29	S K10	7地区	珠洲	片口鉢		12.9	鉢目13条	底1/4
	30	S K01	8地区	土師器	甕	15.0			口15/16
	31	S K01	8地区	土師器	甕	17.2			口3/8
	32	S K01	8地区	土師器	高环(器台)			脚19.3	脚1/5
	33	S K02	8地区	縹文土器				透孔1箇所	破片
	34	S K02	8地区	縹文土器				斜縦文	破片
	35	S K02	8地区	弥生土器	甕	24.1		格子状割み	口1/6
	36	S K02	8地区	弥生土器	甕	13.4		口横端部割み	口1/12
	37	S K02	8地区	弥生土器	甕	17.5			口1/8
	38	S K02	8地区	弥生土器	甕	11.2		外面部煤付着	口1/4
	39	S K02	8地区	弥生土器	甕	15.8		外面部煤付着 鋼引き短縦文	破片
	40	S K02	8地区	弥生土器	甕	15.2	18.9	4.9	完形
	41	S K02	8地区	弥生土器	甕(瓶)				底1/2
	42	S K02	8地区	弥生土器	甕(瓶)				底3/4
	43	S K02	8地区	弥生土器	甕(瓶)				底3/4
	44	S D41	8地区	土師器	甕	16.0			口1/11
	45	S K42	8地区	弥生土器	甕	14.0		剥状文 三角形剥突文	口1/8
	46	S K42	8地区	弥生土器	甕	17.0		波状口縁	口3/16
	47	S K43	8地区	弥生土器	高环(器台)			脚19.3 内外面赤彩 透孔1箇所	脚1/6
	48	S K43	8地区	弥生土器	高环(器台)				脚5/8
	49	S K40	8地区	珠洲	片口鉢	23.6		内外面煤付着	口1/8
	50	S K40	8地区	珠洲	甕(瓶)				破片
	51	S K29	8地区	珠洲	片口鉢				破片
	52	S D04	8地区	縹文土器				斜縦文	破片
	53	S D11	8地区	縹文土器				斜縦文	破片

口：口縁部 底：底部 体：体部 坯：坏部 脚：脚部

第2表 出土遺物觀察表（高島A遺跡）

団版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第9回	54	S E20 8地区	縄文土器	浅鉢	16.9			平行沈線 山形文	口1/10
	55	S E20 8地区	土師器	鉢	14.0			外面煤付着	口1/8
	56	S E20 8地区	土師器	壺	14.5			内外面赤彩	L13/8
	57	S E20 8地区	土師器	器台				透孔 2箇所	脚6/8
	58	S E20 8地区	土師器	器台	9.2	8.7	脚11.7 脚18.6	全面赤彩 透孔 4箇所	はな形
	59	S E20 8地区	土師器	高坏(器台)				擬凹線文	脚1/8
	60	S E20 8地区	土師器	壺	18.0			外面赤彩	L13/16
	61	S E20 8地区	土師器	壺	16.6			外面煤付着	口1/6
	62	S E20 8地区	土師器	壺	19.2				口1/12
	63	S E20 8地区	土師器	壺	19.6				口1/5
	64	S E20 8地区	土師器	壺	21.9				口1/7
	65	S E20 8地区	土師器	壺					体上部1/4
	66	S E20 8地区	土師器	壺	19.7				口1/4
	67	S E20 8地区	土師器	壺	19.7				L11/6
	68	S E20 8地区	土師器	壺			5.7	内外面赤彩	
	69	S E20 8地区	土師器	壺			3.5	指頭圧痕	底完存
	70	S E20 8地区	中世土師器	壺	6.8	1.5	4.8	外面煤付着	底3/4
	71	S E20 8地区	中世土師器	壺	11.2				口1/4
	72	包含層 8地区	土師器	壺(壺)				外面炭化物付着	口1/2
	73	包含層 8地区	珠洲	壺(壺)			9.4		底完存 破片
第11回	74	S D18 8地区	弥生土器	壺	11.6			口縁端部刻み	口1/6
	75	S D18 8地区	弥生土器	壺	18.2			口縁端部刻み 羽状文	L11/12
	76	S D18 8地区	土師器	壺	18.3				口1/3
	77	S D18 8地区	土師器	壺	18.3			内外面煤付着	口1/2
	78	S D18 8地区	弥生土器	壺	12.1				口1/6
	79	S D18 8地区	弥生土器	壺	15.4				破片
	80	S D18 8地区	弥生土器	壺	15.2			内外赤彩	口1/3
	81	S D18 8地区	弥生土器	壺	16.2			外面煤付着	口1/8
	82	S D18 8地区	弥生土器	壺	15.1			外面煤付着	口1/4
	83	S D18 8地区	弥生土器	壺	17.0			擬凹線文	破片
	84	S D18 8地区	弥生土器	壺	17.5			擬凹線文 外面煤付着	口1/3
	85	S D18 8地区	弥生土器	壺	19.5			擬凹線文	破片
	86	S D18 8地区	弥生土器	壺	22.4			擬凹線文 外面煤付着	破片
	87	S D18 8地区	土師器	壺	13.2			外面煤付着	口1/6
	88	S D18 8地区	土師器	壺		2.0		外面煤付着	底完存
	89	S D18 8地区	土師器	壺		2.3			底1/4
	90	S D18 8地区	土師器	壺(壺)		5.5			底完存
	91	S D18 8地区	土師器	壺			つまみ径2.8		破片
	92	S D18 8地区	土師器	鉢	6.7			内外面赤彩	口1/2
	93	S D18 8地区	土師器	器台				内外面赤彩 透孔 3箇所	脚基部2/3
	94	S D18 8地区	土師器	高坏			脚8.2	内外面赤彩	脚完存
	95	S D18 8地区	土師器	高坏(器台)			脚12.5		脚1/5
	96	S D18 8地区	土師器	高坏(器台)			脚12.8		脚1/8
	97	S D18 8地区	土師器	高坏(器台)			脚18.0	外面赤彩	脚1/3
第12回	98	S D20 8地区	土師器	壺	18.6				口1/3
	99	S D20 8地区	珠洲	壺(壺)					破片
	100	S D20 8地区	中世土師器	壺	7.8			内外面煤付着	口1/4
	101	S K01 9地区	土師器	壺					破片
	102	S K01 9地区	土師器	高坏					破片
	103	S K01 9地区	土師器	壺(壺)			6.6		底1/2
	104	S K01 9地区	土師器	壺(壺)			8.2		底1/2
	105	S K03 9地区	土師器	壺	9.0			外面煤付着	口1/5
	106	S K06 9地区	土師器	壺	13.7				破片

口：口縁部 底：底部 体：体部 壁：環部 脚：脚部

第3表 出土遺物観察表（高島A遺跡）

団版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第12回	107	S D19	9 地区	土師器	甕	15.6			破片
	108	S D22	9 地区	赤生土器	甕	20.4			口1/5
	109	S D22	9 地区	土師器	高坏	16.8		口縁端部刻み 内外面赤彩	口1/8
	110	S D22	9 地区	土師器	高坏			脚7.5	脚先存
	111	S D22	9 地区	土師器	鉢	8.5			口1/4
	112	S D22	9 地区	土師器	甕(壺)		5.8	擬円線文 外面煤付着	底2/5
	113	S D27	9 地区	土師器	甕	14.4			口1/6
	114	S D27	9 地区	土師器	甕	15.2			破片
	115	S D27	9 地区	土師器	甕	17.5			口1/8
	116	S D27	9 地区	珠洲	甕(壺)				破片
	117	S D27	9 地区	珠洲	甕(壺)				破片
	118	S K28	9 地区	土師器	甕	15.9			口1/6
	119	S K29	9 地区	土師器	高坏			内面黒色	破片
	120	S K29	9 地区	土師器	器台	9.1	7.8	脚10.7 一部外面赤彩 透孔3箇所	口1/3 脚3/5
	121	S K29	9 地区	土師器	甕	18.0	5.4	つまみ径3.6 内外面赤彩	口1/3
	122	S K29	9 地区	土師器	甕	12.3		外面煤付着	口1/5
	123	S K29	9 地区	土師器	甕	16.4		外面煤付着	口1/3
	124	包含層	9 地区	珠洲	甕(壺)				破片
	125	包含層	9 地区	珠洲	甕(壺)				破片
	126	包含層	9 地区	珠洲	甕(壺)				破片

口：口縁部 底：底部 体：体部 坏：坏部 脚：脚部

参考文献

- 金三津英則他 2006年「高島A遺跡発掘調査報告書－鏡宮高島土地地区調整事業に伴う発掘調査－」射水市教育委員会
 金三津英則他 2006年「作道遺跡発掘調査報告－市道松木作道線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－」射水市教育委員会
 金三津英則他 2007年「高島A遺跡発掘調査報告－射水市立新浜南部中学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－」射水市教育委員会
 田中 明他 2010年「射水市内遺跡発掘調査報告Ⅱ－高島A遺跡・松木遺跡・干田遺跡本発掘調査他－」射水市教育委員会
 田中 明他 2011年「射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ－高島A遺跡本発掘調査・上合地区分布調査他－」射水市教育委員会

第3章 広上地区分布調査

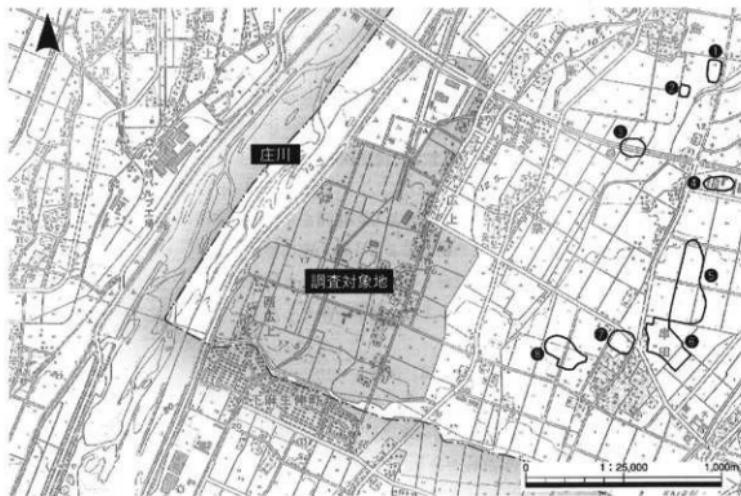
第1節 調査に至る経緯と調査の経過

平成21年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市広上地区（広上・西広上地区）における県営は場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は、平成23年度から28年度までの6か年計画であり、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設及び水田の切土・盛土を含み、大区画は場へ整備する工事である。

広上地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかった。これは地区の大部分が埋蔵文化財調査の未了区域であったためである。しかし、広上地区は、鎌倉時代中期にその名が現れ、同地区にある広上神社には、射水市指定文化財である「木造男神像」が伝えられるなど、中世以来の歴史を持つ地域である。そのため、事業計画地全城を対象とした分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無を確認した上で、事業計画と埋蔵文化財の保護との調整を図る必要があった。

広上地区は、庄川に隣接するという立地上、度々の洪水による地形の改変が頻繁に発生しており、昭和19年（1934）の庄川洪水後には、土壤の移動や客土を作り大規模な耕地復旧事業が実施された。そのため、通常の分布調査で用いられる地表面探集遺物の分布や現況地形の観察のみでは土地本来の状況を把握することが困難である。そこで、現地踏査に加えて小規模なトレンチ発掘を併用した調査を実施し、表面採取による遺物の分布状況と、旧地形や堆積土壤等の地形状況を併せて確認することで、必要な情報精度を確保することとした。

関係者との協議の結果、平成22年度の耕作完了後に射水市教育委員会が主体となって分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の範囲を確定した上で、次年度以降に試掘調査を実施することとなった。



第14図 調査対象地及び周辺の遺跡（1:25,000）

- 鳥鉢田遺跡
- 島鉢田南遺跡
- 小泉遺跡
- 牧田遺跡
- 布目沢川遺跡
- 串田窓前田遺跡
- 串田村中遺跡
- 串田西前田遺跡

現地調査にあたり、平成22年10月18日に、地元は場整備事業推進委員会及び事業関係者に対する分布調査実施と調査方法等についての事前説明を行った。現地調査は、平成22年10月29日から11月24日かけて実施した。

第2節 調査の方法

調査対象範囲は、ほ場整備事業計画区域約72.6haの全域とし、地表面の踏査による遺物の採取と現況地形の確認に加え、小型のバックホウを使用した幅約0.6m、長さ1.2m～2.3mのトレーニング（以下Tと略す）発掘を実施し、地下の旧地形や土壤の堆積状況をあわせて確認した。

トレーニングは、概ね水田3～5枚に1箇所の割合で任意に設定した。掘削の深度は、造構面と考えられる層、または広上地区一帯に広く分布する砂礫層に到達するまでとし、造構・遺物の有無を確認するとともに、実測及び写真撮影により土壤堆積状況の記録を作成した。また、バックホウの進入が困難な場所において、直径約6cmのボーリングステッキを用いた簡易ボーリング調査を19箇所で実施し、地形・堆積土壤確認の補足資料とした。

掘削したトレーニングは計153箇所で、総発掘面積は約151m²である。

第3節 調査の概要

第1項 基本層序

基本層序は上層から順に、I層：黒褐色・暗灰黄色粘質土、II層：暗オリーブ灰色粘質土・褐色砂礫等、III層：黒色・黒褐色シルト、IV層：暗灰黄色・灰色砂、V層：にぶい黄色・黄褐色・灰色シルト、VI層：黄褐色・暗灰黄色砂礫となる。

I層は、現在の水田耕土である。II層は、近代以降の堆積土及び造成土等の人为的堆積層を一括したものであり、砂質土・粘質土・砂・砂礫等、様々な堆積土からなる。

III層以下は自然堆積層である。III層は、黒色系統のシルト層である。IV層は、粗砂・微砂等の堆積層を一括したもので、V・VI層の検出深度が深い場所を中心に堆積する。

V・VI層は、地山と考えられる層である。このうち、V層は造構面と想定しているシルト層であり、場所や地表からの深さによって色調や土質が異なる。VI層は、広上地区一帯に広く分布する砂礫層であり、水田耕上直下から地表下1.4m付近まで、検出深度は様々である。VI層直上の堆積層には、土質にかかわらず大小の礫を含むことが多い。

なお、V層が堆積する範囲では、基本層序どおりの堆積を示すが、場所によってはV層が堆積せず、III・IV層直下にVI層が堆積する。洪水の影響による土壤の流出等によって、V層が安定して堆積しない場所もあり、V・VI層が同時期に地表面として現れていた可能性がある。

トレーニング掘削では、V層又はVI層の検出までを調査対象とした。

第2項 造構・遺物及び地形の状況（第15図、図版8～10）

調査の結果、埋蔵文化財包蔵地の所在は確認できなかった。

広上地区は庄川右岸に面した射水市の南西部に位置する。地区的範囲は、東西約1.0km、南北約1.9km余りで、中央には県道高岡・小矢部線が通り、この県道に沿って南北に集落が連なっている。

標高は、地区東部の高岡市境付近が18.1m、土合地区との境界付近が10.3mとなり、地区の南北で約8mの比高差がある。東西方向は、地区の西端から中部にかけては比較的平坦であるが、地区中央部から東端部の串田地区境界付近に向かって標高が低くなる。串田地区に至ると、標高は再び1m程

度高まり、県道東部の水田部が地区境界に沿って南北に低く落ち込んだ地形となっている。

地区的土層堆積状況を概観すると、まず、全域に基盤層となるVI層の砂礫が堆積する。県道を中心として、東西にそれぞれ1箇所ずつ、V層のシルト層堆積範囲が南北方向の帶状に広がる。V・VI層からI層の耕土の間には、II～IV層が堆積するが、VI層の出現深度が浅い場所が多くあり、そのような場所では、中間層が存在せず耕土直下でV・VI層が現れる。

なお、隣接する串田・土合地区をはじめとする近隣の調査結果から、V層のシルト層が安定して堆積している点を、埋蔵文化財包蔵地の存在を推定する一つの指標としている。

県道の西側では、第15図中Aの範囲(82・85・86・88・90・93・95・115～117・121～125Tを結んだ範囲)にV層のシルト層が分布する。しかし、大部分のトレーナーでは、V層の厚さが10cm程度で不安定な堆積状況にあり、123Tでは耕土直下にVI層の蝶層が現れる。また周辺では、VI層がこのV層よりも浅い場所に現れる傾向がみられ、砂層(IV層)の堆積を伴う範囲とも重複すること、その範囲が帶状に蛇行した形となることから、旧河川跡等の窪地に埋上として堆積したと考えられる。

県道の東側では、地区の中央部から東部に位置する第15図中Bの範囲(15・16・18・24～29・34・35・126・127・140・141・144・145・148Tを結んだ範囲)にV層のシルト層が分布する。

このうち、串田地区との境界付近では、シルト層が灰色で粘性の強い土質となり、低湿地の様相を呈する。一方で、地区中央部の24～28・35・141・144・145Tの範囲では、砂質でしまりのよい黄褐色シルトが安定して堆積する。

遺構は、地区全域において確認できなかった。遺物は、78・138TのII層中から、それぞれ近代の瓦片が1点ずつ出土しただけである。

地表面踏査では、V層のシルト層堆積範囲を中心に、僅かながら遺物の散布が認められる。35・151T付近では古代の須恵器片を1点ずつ採取しているが、共に客土の存在が認められる場所での採取であり、当地に帰属する遺物ではない。その他の採取遺物は、江戸時代以降の陶磁器を中心であり、大部分が明治時代以降のものである。

遺物は、現広上集落に沿った形で南北に細長く点在しており、特定の時代や特定場所での集中傾向は認められない。集落域を離れた、庄川付近では、遺物の散布は皆無であった。

第3項 歴史的環境と調査のまとめ

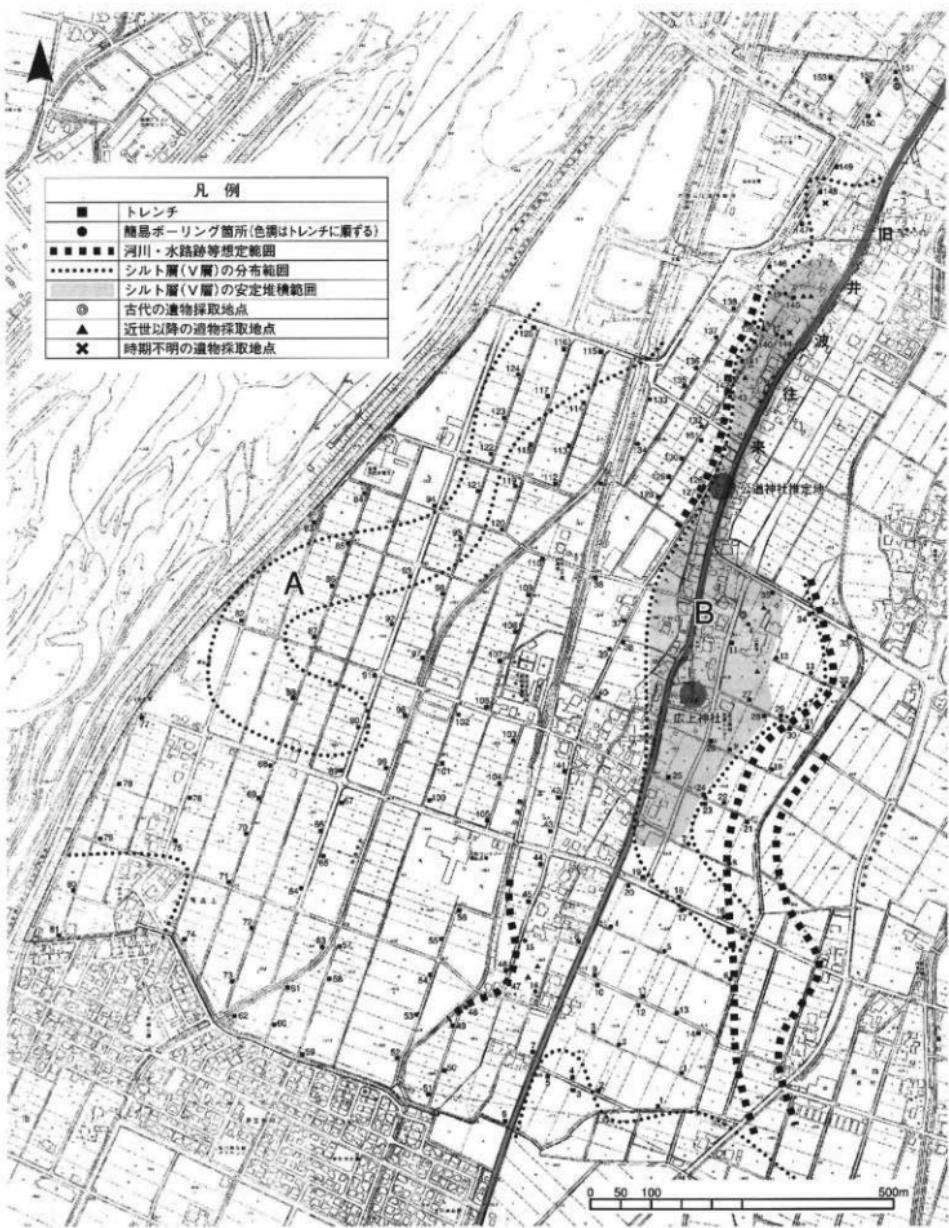
広上地区は、明治22年(1889)の町村分合によって誕生した旧浅井村に含まれる。旧浅井村は、広上地区及び土合・小泉・上条・下条・島・堀之内村から成り、このうち広上・小泉・上条・下条・島の5か村は「浅井郷五ヶ村」と称され、中世以前から存在していた。

歴史上に「広上」の地名が現れるのは、鎌倉時代中期の文永7年(1270)である。「泰守高多烏浦立始次第注進状」によると、「ひろかみ(広上)」から、「越中国般野(般若)」「あさい(浅井)」とともに、若狭小浜の西津渡を経由して京都へ年貢米を送っていた。また、建武3年(1336)には、京都勤修寺の寺領として「越中国浅井弘上庄」の名が見える(「光嚴上院宣并日録案」)。

当時の弘上庄は、現在の庄川左岸に位置する高岡市西広上地区までを含む広大な範囲であった。承応元年(1652)の庄川洪水の際には、広上地区の西を流れる庄川が流入して地区を東西に分断する格好となり、その結果、広上地区は庄川左岸の西広上村と右岸の東広上村とに分かれ、現在に至っている。

中世以前の広上集落の状況を直接的に示す史料は、現在のところ知られていない。現在の集落中央に位置する広上神社の社伝によると、かつて広上には公道神社と呼ばれる古社があった。

公道神社は、平安時代末期の創建とされ、戦国時代には増山城主神保氏の崇敬厚く社領60石の奉納



第15図 分布調査の結果

があったが、戦国時代に越後勢の兵火によって焼失したと伝えられる。その後、社地跡には旧社名の小社が再興されたが、昭和2年（1927）に現在の広上神社に合祀された。

広上神社は、公道神社社家の持宮であった八幡宮を、天正18年（1590）以降に広上村の鎮守としたものと伝えられ、大正5年（1916）に現在の名称に改称された。現在、広上神社に安置されている射水市指定文化財「木造男神像」他12体の中には、平安時代末期から南北朝時代にかけての作品を複数含むが、これらの神像は、もとは公道神社に祭られていたが、戦国時代に同社が焼失した際、難を逃れて広上神社に移されたとされる。

広上神社・公道神社は、歴史的にも広上地区の変遷と深く関わり、この二社を中心として広上集落が形成されていたと考えられる。

公道神社の所在地については現在でも明らかではないが、石黒信由が文政10年（1827）に作成した庄川右岸の用水絵図（財団法人高樹会蔵）には、現在の広上神社北方に「古宮」と記された場所が見える。この「古宮」の位置は、今回調査を実施した126Tの東側に相当し、旧地形の状況から見ると、地形的に広上地区内でも最も安定した場所となっている。また、付近には、「公道」の地名と共に、古社が所在したという伝承が残されており、この場所が公道神社推定地の一つとして挙げられる。

公道神社の推定地及び広上神社は、県道高岡・小矢部線沿いに位置しているが、現集落もまた、この県道に沿って南北に展開している。現在の県道高岡・小矢部線は、庄川右岸の大門から高岡市中田地区を結ぶ江戸時代の「井波往来」を基本的に踏襲している。

井波往来は、前出の『秦守高多鳥浦立始次第注進状』に、般野（般若）・ひろかみ（広上）・あさい（浅井）と併記されていることから、庄川右岸に位置するこの三地区を南北に結ぶ街道として、遅くとも鎌倉時代中期には、その原形となる街道が存在していたと考えられる。

江戸時代においても、現在の広上集落にあたる東広上村は、この井波往来沿いに位置している。地形的に最も安定した場所であったが故に、この場所が街道筋として選定され、集落も街道沿いに展開していくのである。逆に、街道から離れれば離れるほど、洪水等の影響を受けやすい不安定な地形となることから、近世以前の広上集落についても、公道神社推定地から広上神社にかけての県道沿いにその範囲を想定することができる。

以上、伝承・古絵図・地形状況から、近世以前の広上集落範囲は、井波往来を踏襲した県道高岡・小矢部線に沿った、現在の広上集落と重複して存在する可能性が高いといえる。

従って現在の広上集落は、井波往来沿いに形成された集落が、中・近世を通じて拡大発展したと評価できる。集落が廃絶せず、今まで限られた土地を継続的に改変・使用しているため、今回の調査では、埋蔵文化財包蔵地として捉えうる遺構・遺物が確認できなかったと考えられる。

参考文献

- 大門町 1981年「大門町史」
- 大門町 1994年「大門町歴史の遺調査報告書」
- 大門町 2005年「大門町史続巻」
- 射水地区広域圏事務組合 2000年「いみずの神社・寺院」

第4章 その他の遺跡調査

平成22年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査1件・試掘調査13件・本発掘調査3件・工事立会12件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で3割減少、調査原因の駐車場造成がその3割を占める結果となった。開発への対応では、2件の試掘調査で遺跡の広がりが確認されたが、工法によって遺跡の保護措置がとられ本発掘調査の必要はなくなった。

分布調査

No	所在地	原因	調査期間	対象面積	種別	現況	探査遺物	開発への対応			
1	広上地区	駅前は場整備事業	H22.10.29~11.24	726,000m ²	未踏査地	標高10~18mの水田		支障なし			
計	1件			対象面積 726,000m ²							

試掘調査

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	小林 211440	小林241~外14号	宅地造成	H22.4.5	1,194m ²	46.2m ²	集落	溝・土坑	弥生土器	工法によっては本発掘調査必要
2	今井二島 211043	今井441番	資材置場造成	H22.5.7	521m ²	40.6m ²	散布地	溝		支障なし
3	田町 211078	三ヶ958番1	個人専用住宅建築	H22.6.10	237m ²	27m ²	散布地	溝・土坑		支障なし
4	三ヶ 211075	三ヶ1176番1外2筆	知的障害者施設建設	H22.6.18	1,091.8m ²	20.5m ²	散布地			支障なし
5	八塚A 211447	八塚宇川田367~1 外3筆	集合住宅建築	H22.8.18	412.18m ²	18.8m ²	散布地 集落			支障なし
6	三ヶ 211075	三ヶ1180番1	宅地造成	H22.8.30~31	3,278.02m ²	110.7m ²	散布地		古墳土器類	支障なし
7	新星敷 211325	青井谷808番外5筆	駐車場造成	H22.10.14~15	6,601m ²	444.6m ²	散布地		古代須恵器	支障なし
8	日宮城跡 211149	日宮字寺山88~1 外1筆	駐車場造成	H22.11.16	284m ²	64m ²	集落 城壁			支障なし
9	黒河南 211127	黒河字竹山13251~2 外2筆	福祉施設建設	H22.11.24	2,001.42m ²	31m ²	散布地	溝・土坑		支障なし
10	本江宮田 211410	大門本江614~7 外1筆	個人専用住宅建築	H22.11.25	247.05m ²	18.2m ²	散布地	溝		支障なし
11	朴木C 211044	朴木67番1	駐車場造成	H22.12.1	2,583m ²	61.7m ²	散布地			支障なし
12	朴木C 211044	朴木19番4	駐車場造成	H22.12.8	783m ²	49.6m ²	散布地	溝・土坑	古墳土器類 中世珠潤	工法によっては本発掘調査必要
13	八塚A 211447	八塚宇川田336~1 外2筆	個人専用住宅建築	H23.3.29	237m ²	11.9m ²	散布地 集落			支障なし
計	10遺跡13件				19,470.47m ²	1,947.047m ²				
					対象面積	19,470.47m ²	発掘面積	1,947.047m ²		

本発掘調査

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物				
1	高島A 211027	鏡宮弥生2丁目100	個人専用住宅建築	H22.5.27~6.9	111m ²	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳井戸・中世溝・中世土坑	弥生土器・中世珠潤				
2	高島A 211027	鏡宮弥生2丁目6番	個人専用住宅建築	H22.6.28~7.22	102m ²	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳井戸・中世溝	古墳土器・古代須恵器・中世珠潤・近世植株・近世便器・木製品				
3	高島A 211027	鏡宮弥生2丁目81番地	個人専用住宅建築	H22.7.23~8.18	92m ²	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳輪列・中世溝	古墳土器・中世珠潤・中世青磁・中世瀬戸美濃・中世八尾・鉄滓・土鍬・木製品				
計	1遺跡3件				発掘面積 305m ²							

第4表 平成22年度 埋蔵文化財発掘調査一覧



●～⑪は第4表試掘調査の番号を示す。

第16図 試掘調査位置図

第1節 平成22年度試掘調査概要

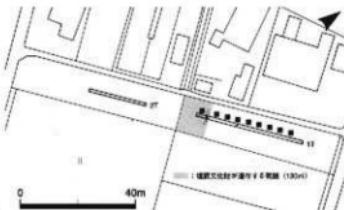
1. 小林遺跡（第17図、図版11）

所在地 射水市小林241-1 外4筆
調査期間 平成22年4月5日
調査面積 対象面積：1,194m² 発掘面積：46.2m²
調査原因 宅地造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 弥生時代：溝1条・土坑5基
出土遺物 弥生土器



調査概要

対象地は標高約5mに位置する。上層は上から1層が造成盛土、2層が旧水田耕土、3層が黒褐色（2.5Y3/1）の自然堆積土、4層が灰オリーブ色シルト（5Y5/2）の地山である。検出した遺構から弥生土器が出土。埋蔵文化財遺存範囲内（130m）において、現地表下1m以上の掘削を伴う工事等を施工する場合は、記録保存が必要である。



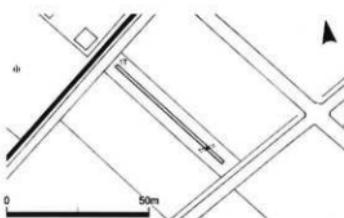
2. 今井二島遺跡

所在地 射水市今井441番
調査期間 平成22年5月7日
調査面積 対象面積：521m² 発掘面積：40.6m²
調査原因 資材置場造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 時期不明：溝1条
出土遺物 なし



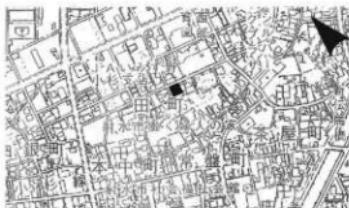
調査概要

対象地の現況は水田で、標高約2mに位置する。上層は3層に細分され、地山は灰黄色（2.5Y7/2）シルトである。この遺跡は、過去3度の試掘調査を実施しているが、全てに遺構・遺物がなく、遺跡の広がりは確認されていない。今回も埋蔵文化財の遺存が確認できなかった結果を踏まえ、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が必要と考える。

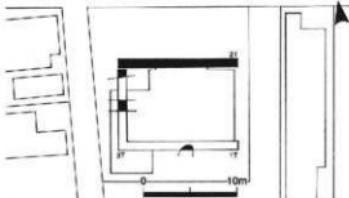


3. 田町遺跡

所在 地 射水市三ヶ958番1
調査 期間 平成22年 6月10日
調査 面積 対象面積: 237m² 発掘面積: 27m²
調査 原因 個人専用住宅建築
調査 担当者 田中 明・金三津英則
検出 遺構 時期不明: 溝 2条・土坑 1基
出土 遺物 なし



調査 概要 対象地は遺跡の北東端に位置し、南方約10mには市指定史跡「射水・砺波郡奉行所跡」の石碑が残る場所である。遺構からは出土遺物もなく、時期の特定には至らなかったが、覆土の堆積状況を見る限りでは近代以降のものと考えられる。また、江戸時代の奉行所に関する記述も見つからず、その存在を想定したが、当該期の遺構・遺物も確認できなかった。

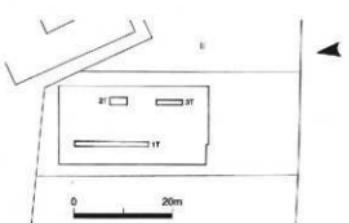


4. 三ヶ遺跡

所在 地 射水市三ヶ1176番1 外 2筆
調査 期間 平成22年 6月18日
調査 面積 対象面積: 1,091.8m² 発掘面積: 20.5m²
調査 原因 知的障害者拠点施設建設
調査 担当者 田中 明・金三津英則
検出 遺構 なし
出土 遺物 なし



調査 概要 土層は上から1層が造成盛土、2層が旧耕作土、3層が黒色(2.5Y2/1)シルトの自然堆積土、4層が黄灰色シルト(2.5Y6/1)の地山で、現況の造成盛土下約2mで検出した。対象地は三ヶ遺跡の中央部に位置するが、隣接地の試掘調査においても、遺跡の広がりが確認されていないため、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が必要と考える。

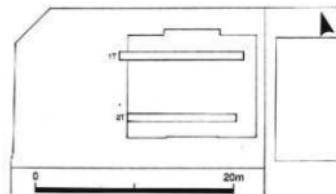


5. 八塚A遺跡

所在地 射水市八塚字川出367-1 外3筆
調査期間 平成22年8月18日
調査面積 対象面積:412.18m² 発掘面積:18.8m²
調査原因 集合住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

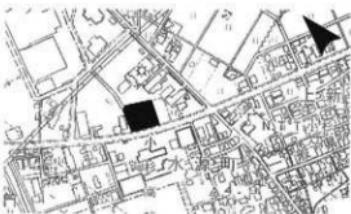


調査概要 対象地の現況は荒蕪地である。土層は上から1層が山砂造成盛土、2層が旧耕作土、3層が黒色(5Y2/1)シルトの腐植土、4層が灰白色(5Y7/1)シルトの地山である。植物遺体を多量に包含する堆積が、地山直上で確認できるため、沼沢地であったと考えられる。居住に適さない場所であり、遺跡の広がりは確認できなかった。

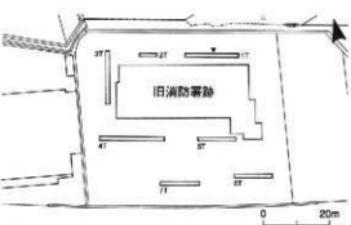


6. 三ヶ遺跡 (第17図、図版12)

所在地 射水市三ヶ1180番1
調査期間 平成22年8月30日
調査面積 対象面積:3,278.02m² 発掘面積:110.7m²
調査原因 分譲宅地造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 古墳土師器



調査概要 土層は上から1層が造成盛土、2層が旧耕作土、3層が黒褐色(25Y3/1)シルトの自然堆積土、4層が黄灰色シルト(2.5Y6/1)の地山で、現況の造成盛土下約2mで検出した。遺構ではなく、出土遺物も窪地への流れ込み堆積と考えられるため、遺跡の広がりは確認されなかった。隣接地の試掘結果も踏まえた包蔵地の範囲変更が必要である。

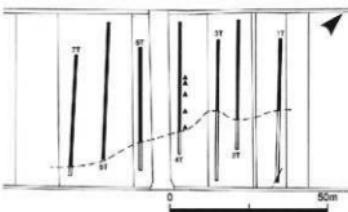


7. 新屋敷遺跡（第17図、図版13）

所在地 射水市青井谷808 外5筆
 調査期間 平成22年10月14日・15日
 調査面積 対象面積:6,601m² 発掘面積:444.6m²
 調査原因 駐車場造成
 調査担当者 田中 明・金三津英則
 検出遺構 なし
 出土遺物 古代須恵器



調査概要 対象地西側には下条川が隣接するため、旧流路と考えられる谷状地形が全トレンチで検出された。元々の下条川が現在より東側を流路としていたために生じた地形変化と考えられる。平安時代の須恵器が出土したが、遺構に伴わない散発的なものであった。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかつた為、遺跡の広がりは見られなかった。

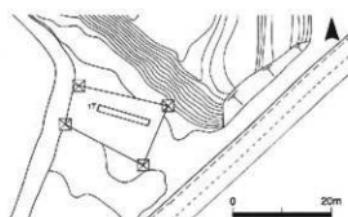


8. 日宮城跡

所在地 射水市日宮字寺山88-1 外1筆
 調査期間 平成22年11月16日
 調査面積 対象面積:284m² 発掘面積:6.4m²
 調査原因 駐車場造成
 調査担当者 田中 明
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



調査概要 日宮城は、15世紀中頃から畠山氏の守護代として射水・婦負二郡を支配していた神保氏の支城であった。射水平野と接する射水丘陵先端部に位置し、標高は最高点で29.6mを測る。対象地は造成前の地形図から、城郭の南東側を沿う谷間の最南端部にあたり、沼状の軟弱地盤であったと考えられる。その為、調査で地山は確認されていない。

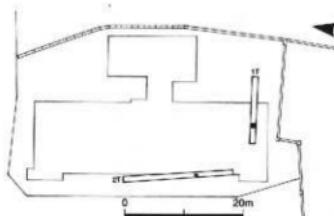


9. 黒河南遺跡

所在地 射水市黒河字竹山3251-2 外2筆
調査期間 平成22年11月24日
調査面積 対象面積:2,001.42m² 発掘面積:31m²
調査原因 福祉施設建設
調査担当者 尾野寺克実・金三津英則
検出遺構 時期不明:溝1条・土坑1基
出土遺物 なし



調査概要 対象地は南から北へ傾斜する丘陵の縁辺部に位置する。土層は5層に細分され、地山は浅黄色シルト(5Y7/3)である。最も低い2T西端と最も高い1T南端の間で約70cmの地山標高差があり、南・東から続く傾斜地形の谷部に位置する状況を示している。遺物を包含する土層・遺構が遺存せず、埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

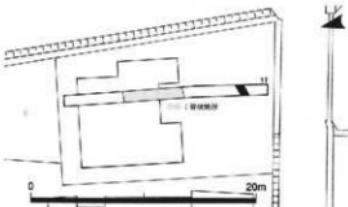


10. 本江宮田遺跡

所在地 射水市大門本江614-7 外1筆
調査期間 平成22年11月25日
調査面積 対象面積:247.05m² 発掘面積:18.2m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 金三津英則
検出遺構 時期不明:溝1条
出土遺物 なし



調査概要 土層は5層に細分され、上下2面の旧地表面が遺存する。上層地山は、厚さが最大15cm程度と薄く安定した堆積状況ではない。下層地山は、トレンチ中央部に谷があり込む起伏のある地形となっている。遺跡の中心地は、平安時代頃の整備といわれる古道「熊野往来」の推定ルートが通っている現大門本江集落の中央部付近が想定される。

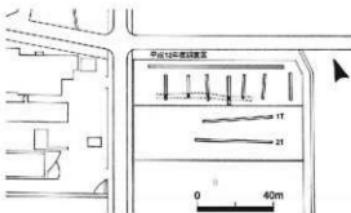


11. 朴木C遺跡

所在地 射水市朴木67番1
 調査期間 平成22年12月1日
 調査面積 対象面積：2,583m² 発掘面積：61.7m²
 調査原因 駐車場造成
 調査担当者 田中 明・金三津英則
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



調査概要 対象地の現況は水田で、標高約2.1mに位置する。土層は4層に細分され、地山はにぶい黄色粘質シルト（2.5Y 6/3）である。平成12年度に北側隣接地の試掘調査で、弥生時代後期の溝1条を東西方向に確認していたが、今回対象地には当該期の遺構は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

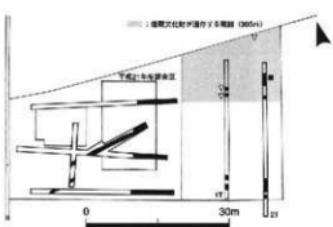


12. 朴木C遺跡（第17図、図版14）

所在地 射水市松木19番4
 調査期間 平成22年12月8日
 調査面積 対象面積：783m² 発掘面積：49.6m²
 調査原因 駐車場造成
 調査担当者 田中 明・金三津英則
 検出遺構 古墳時代：溝2条 中世：土坑1基
 近代以降：溝2条
 出土遺物 古墳土師器・中世珠洲



調査概要 対象地の現況は畠地で、標高約2.9mに位置する。土層は上から1層が水田耕土、2層がにぶい黄色（2.5Y 6/4）シルトの地山である。両トレンチ北側で検出した溝・土坑から、古墳時代の土師器や中世の珠洲が出土している。このため、対象地北側の範囲内で、遺構に影響が及ぶ工事を実施する場合は、記録保存（305m²）が必要である。

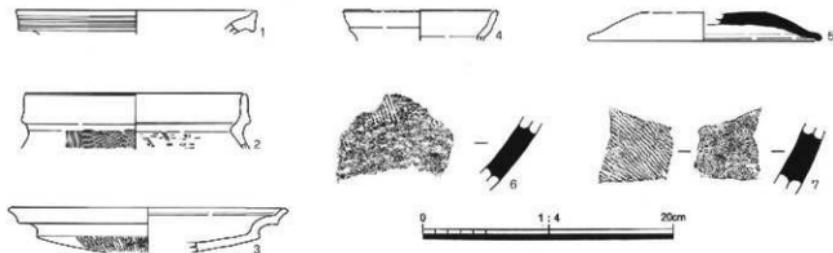
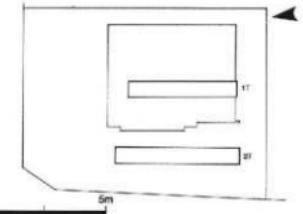


13. 八塚A遺跡

所在 地 射水市八塚字川田336-1 外2筆
 調査期間 平成23年3月29日
 調査面積 対象面積: 237m² 発掘面積: 11.9m²
 調査原因 個人専用住宅建築
 調査担当者 田中 明・金三津英則
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



調査概要 対象地の現況は畠地である。土層は上から1層が造成盛土、2層が旧耕作土、3層が黒褐色(2.5Y3/1)粘質シルトの床土、4層が灰黄色(2.5Y6/2)シルトの地山である。植物遺体を包含する堆積が、地山直上で確認できるため、沼沢地付近であったと考えられる。居住に適さない場所であり、遺跡の広がりは確認できなかった。



第17図 遺物実測図〔試掘調査〕(1/4)
 小林道路(1~3) 三ヶ道路(4) 新屋敷道路(5) 朴木C道路(6~7)

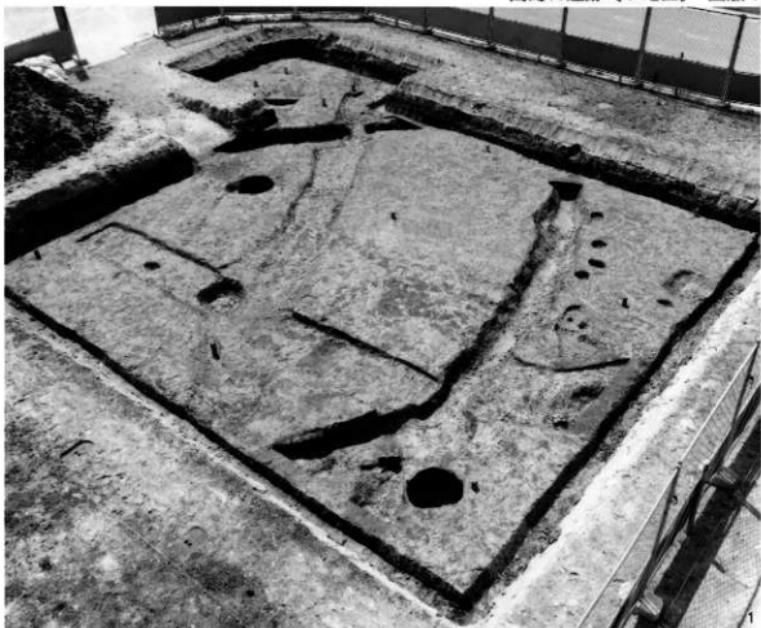
図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第17図	1	1 T	弥生土器	甕	19.3			小林道路 外面縁付着	破片
	2	1 T	弥生土器	甕	17.7			小林道路	口1/8
	3	1 T	弥生土器	高環	22.2			小林道路	口1/10
	4	1 T	土師器	甕	12.2			三ヶ道路 古墳時代前期	口1/8
	5	4 T	須恵器	壺	13.4			新屋敷道路	口1/5
	6	2 T	珠洲	片口鉢				朴木C道路 卸目7条	破片
	7	2 T	珠洲	甕				朴木C道路 内面カール付着	破片

第5表 出土遺物観察表(試掘調査)

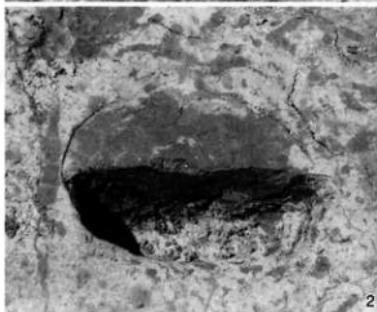
口:口縁部 底:底部 体:体部 环:环部 脚:脚部

高島 A 遺跡〔7 地区〕 図版 1

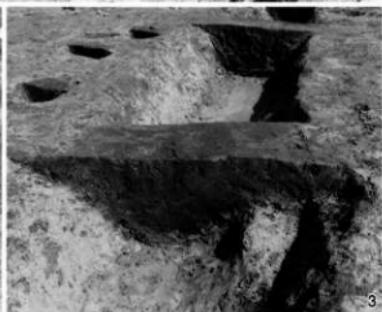
1. 造構全景
(北西から)



2. 土坑SK03
(南から)



3. 溝SD07D-D'
(南から)



4. 溝SD09 I-I'
(東から)



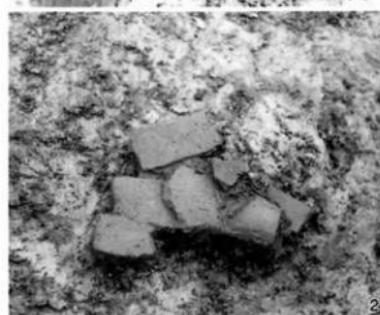
5. 土坑SK12
(北東から)



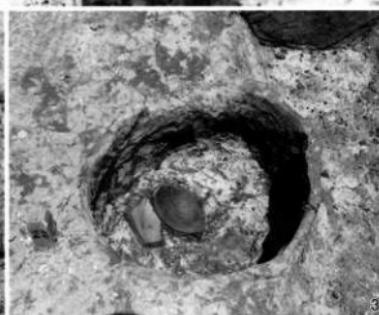
図版2 高島A遺跡〔7地区〕



1. 土坑SK12（北東から）
遺物出土状況



2. 溝SD09（東から）
遺物出土状況



3. 土坑SK10（南から）
遺物出土状況
〔第6図28(左)
29(右)〕

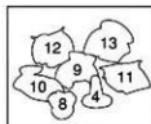


4. 土坑SK17（北東から）
遺物出土状況

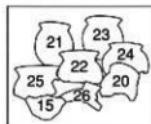


5. 溝SD18（南から）
遺物出土状況
〔第5図2〕

出土遺物
土器
土坑SK12



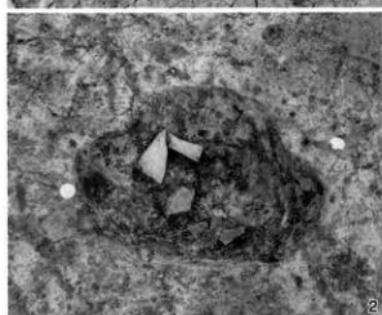
土器
土坑SK17



図版4 高島A遺跡〔8地区〕



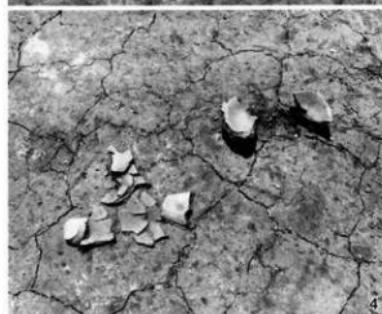
1. 遺構全景
(東から)



2



3



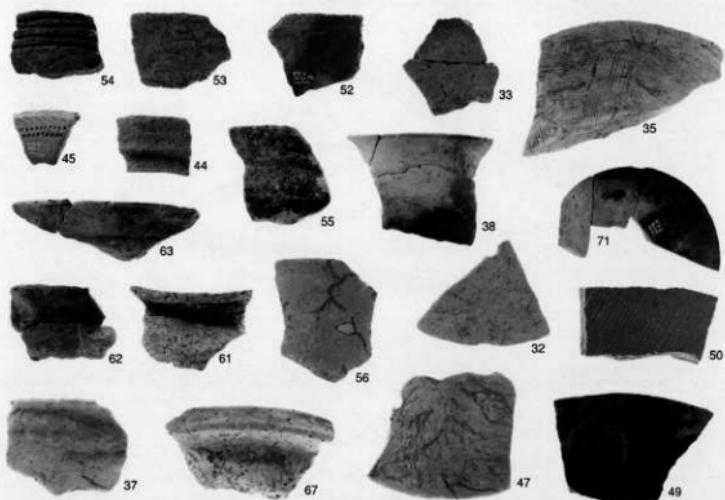
4



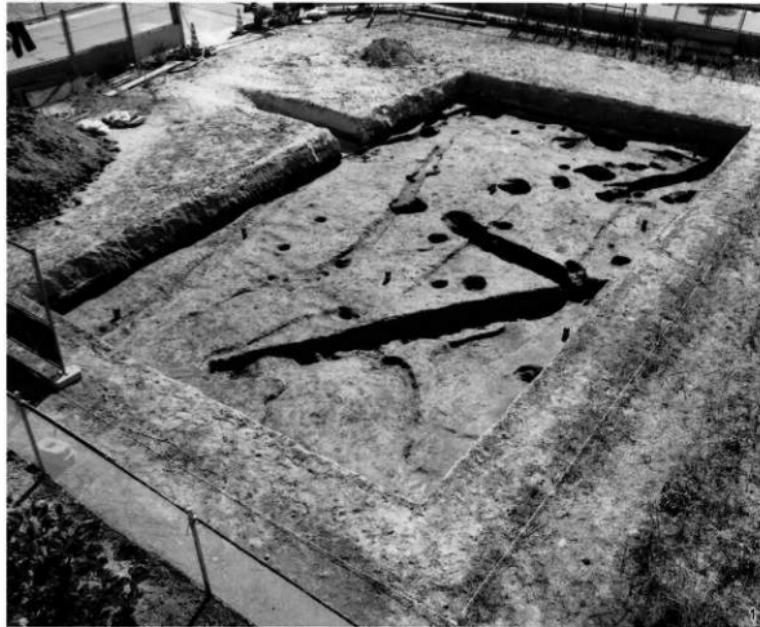
4. 土坑SK02 (北から)
遺物出土状況

5. 土坑SK43 (西から)
遺物出土状況

出土遺物
土器



図版6 高島A遺跡〔9地区〕



1. 遺構全景
(東から)



2

2. 溝SD18G-G'
(南から)



3

3. 溝SD20J-J'
(南から)



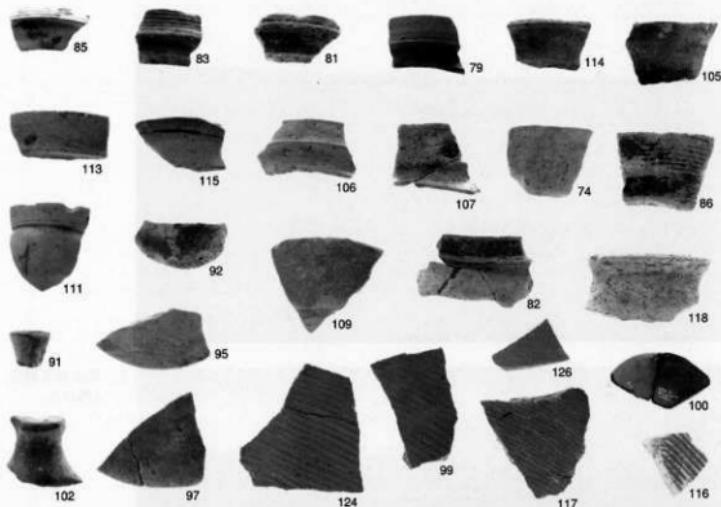
4

4. 溝SD22 (西から)
遺物出土状況



5

5. 土坑SK28 (東から)
柱痕状況

出土遺物
土器

図版8 広上地区分布調査



1. 広上地区遠景
(西から)



2. 広上地区遠景
(西から)



3. 広上地区遠景
(北から)

1. 35トレンチ土層断面
(北から)



2. 96トレンチ土層断面
(北から)



3. 142トレンチ土層断面
(南から)



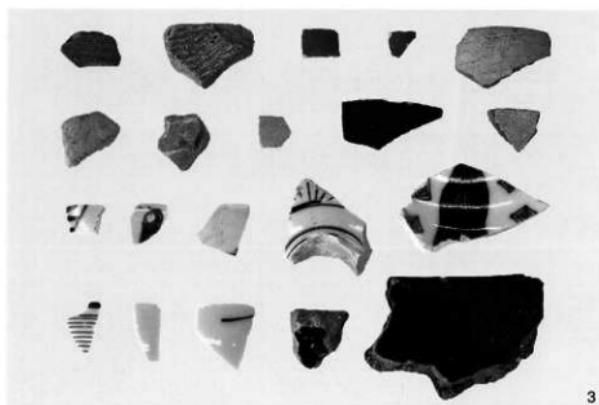
図版10 広上地区分布調査



1. 重機掘削状況
(西から)



2. ポーリング状況



3. 出土遺物
土器・陶磁器

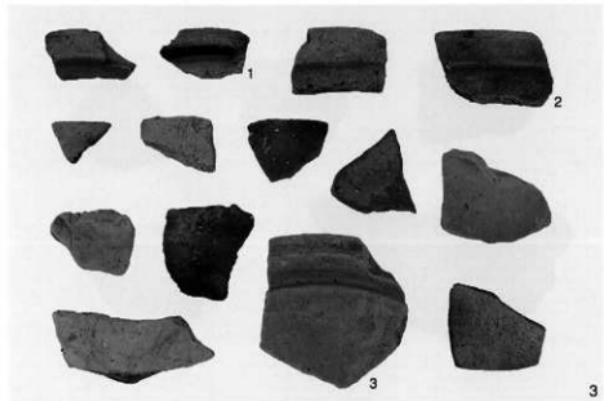
1. 1トレンチ掘削状況
(北から)



2. 遺構検出状況
(北から)



3. 出土遺物
土器



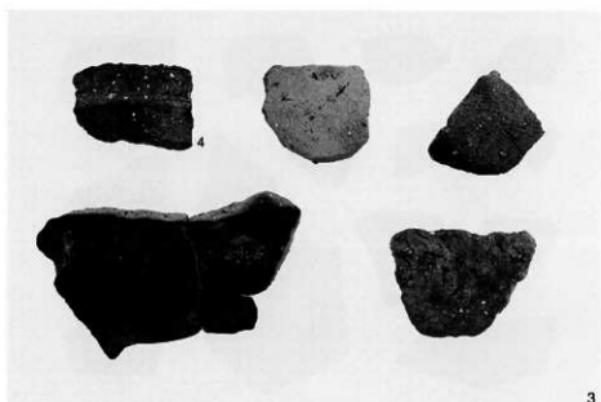
図版12 三ヶ遺跡〔試掘調査〕



1. 対象地全景
(西から)



2. 4トレンチ土層断面
(南から)



3. 出土遺物
土器

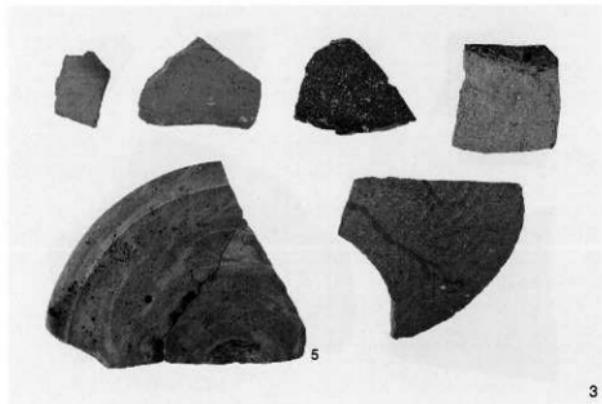
1. 1トレンチ掘削状況
(東から)



2. 4トレンチ土層断面
(南から)



3. 出土遺物
土器



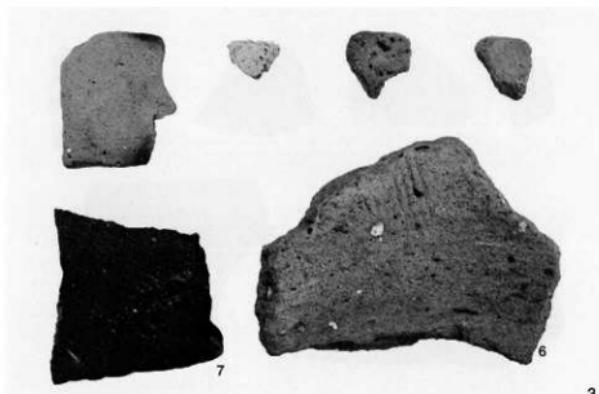
図版14 朴木C遺跡〔試掘調査〕



1. 1トレンチ溝SD01
(西から)



2. 2トレンチ土坑SK01
(西から)



3. 出土遺物
土器

報告書抄録

ふりがな	いみずしないいせきはくつちょうさはうこくよん							
書名	射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ							
副書名	高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他							
編著者名	田中 明 金三津 英則							
編集機関	射水市教育委員会							
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地 TEL0766-59-8093							
発行年月日	西暦2012年2月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高島A遺跡	富山県射水市 鏡宮 弥生	16211 (16203)	027 (028)	36° 45' 14"	137° 05' 15"	平成22年度 20100527～ 20100609	111m ²	個人専用 住宅建築
						平成22年度 20100628～ 20100722		
						平成22年度 20100723～ 20100818		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高島A遺跡	集落 散布地	弥生（中期・後期） 古墳時代（前期） 縄文・空町時代	溝・土坑・井戸 横列	縄文土器・弥生土器 古墳土器・珠洲 中世土器器				
要約	弥生時代中期後半から続いてきた集落の終焉期が古墳時代前期に至ることが判明した。							

*コード欄の（ ）内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

*試掘調査の抄録は第4表を参照する。

射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

-高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他-

2012(平成24)年2月29日 発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部893番地

TEL 0766-59-8093

印 刷 株式会社 二口印刷
